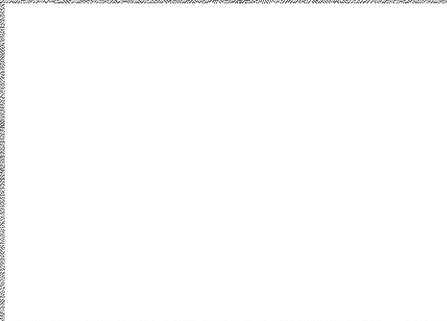


日航123便墜落事故対策の記録

昭和 61 年 3 月

群馬県





日航 123 便が墜落した高天原山系の現場



生存者の救出にあたる上野村消防団員と自衛隊員
(上毛新聞社提供)



生存者をヘリコプターに収容する自衛隊員



機体後部が墜落したスゲの沢で捜索にあたる消防団員・自衛隊員・警察官



急峻な地形のため夜を徹して第2ヘリポートを急造する自衛隊員



捜索のため現地出動態勢を備える上野村消防団員



墜落現場の活動拠点となったヘリポート付近で活動する群馬県警察



空輸された遺体を収容する多野藤岡広域消防本部職員等

は じ め に

520名の尊い生命を奪う航空史上未曾有の大惨事となった日本航空123便大型旅客機が多野郡上野村の山中に墜落して既に7か月を経過いたしました。その惨状はいまなお記憶に新しいところであります。

この事故に遭遇され非命の最期をとげられた520名の方々のご冥福を改めてお祈り申し上げますとともに最愛の肉親を失われて悲嘆の毎日を過ごされているご遺族の皆様に対して心からご同情申し上げます。

この事故の発生と同時に県といたしましても事故対策本部を設置し、救援活動に取り組んで参りましたが、救出・救援活動に夜を徹してあたられた、警察、自衛隊、消防、医療関係機関の方々、ボランティア団体の方々に対しまして厚くお礼申し上げます。

私たちは、一日も早くこの事故の原因が解明され、二度とこのような不幸な事故が起ることのないことを心から強く念願するものであります。

本記録は、この事故の概況とその救難救助対策の状況等について記したものであります。

これが、今後の対策推進にあたって多少なりとも参考になれば幸いです。

昭和61年3月

群馬県知事 清水 一 郎

目 次

| | 頁 |
|-------------------------|---|
| 第 1 事故の概要 | 1 |
| 1 事故発生日時及び事故に至る経緯 | 1 |
| (1) 事故発生日時 | 1 |
| (2) 事故に至る経緯 | 1 |
| 2 発生場所 | 1 |
| 3 事故航空機 | 2 |
| 4 被害の状況 | 2 |
| (1) 塔乗者 | 2 |
| (2) 死傷者 | 2 |
| (3) 山林焼失 | 2 |
| 5 事故原因 | 2 |
| | |
| 第 2 関係諸機関の対応の状況 | 4 |
| 1 群馬県の対応 | 4 |
| (1) 組織体制 | 4 |
| ア 対策室の設置 | 4 |
| イ 事故対策本部の設置 | 4 |
| ウ 上野現地対策本部の設置 | 5 |
| エ 藤岡現地対策本部の設置 | 5 |
| (2) 活動内容 | 6 |
| ア 県対策本部関係 | 6 |
| イ 上野現地対策本部関係 | 6 |
| ウ 藤岡現地対策本部関係 | 6 |
| エ 県議会関係 | 7 |
| 2 上野村の対応 | 7 |
| (1) 組織体制 | 7 |

| | | |
|-----|--------------------|----|
| ア | 事故対策室の設置 | 7 |
| イ | 事故対策本部の設置 | 8 |
| (2) | 活動内容 | 8 |
| ア | 墜落現場の確認活動 | 8 |
| イ | 炊き出し等の支援 | 8 |
| ウ | 警察、自衛隊等の施設の確保 | 8 |
| エ | 資機材の調達及び支援村民の確保 | 9 |
| オ | 環境衛生対策 | 9 |
| カ | 身元未確認遺体の引取り及び遺骨の安置 | 9 |
| 3 | 藤岡市の対応 | 9 |
| (1) | 組織体制 | 9 |
| | 事故対策本部の設置 | 9 |
| (2) | 活動内容 | 10 |
| ア | 遺体収容施設の確保 | 10 |
| イ | 遺族等に対する支援 | 10 |
| ウ | 火葬手続きの便宜 | 10 |
| エ | 環境衛生対策 | 10 |
| オ | 民間奉仕団体の連絡調整 | 10 |
| 4 | 近隣町村の対応 | 11 |
| (1) | 住民に対する広報と消防団員の待機 | 11 |
| (2) | 対策従事者の宿泊施設の確保 | 11 |
| 5 | 消防機関の対応 | 11 |
| (1) | 多野藤岡広域消防本部（署） | 11 |
| ア | 事故対策消防本部の設置 | 11 |
| イ | 活動の内容 | 11 |
| (ア) | 墜落場所確認のための情報収集 | 11 |
| (イ) | 消火・救急体制の確保 | 11 |
| (ウ) | 捜索・救助活動 | 12 |
| (エ) | 生存者の救急搬送 | 12 |
| (オ) | 遺体の搬送・収容 | 12 |

| | |
|-----------------------|----|
| (カ) ヘリポートの管理保全 | 12 |
| (2) 上野村消防団 | 12 |
| ア 捜索・救助活動 | 12 |
| イ 遺体の捜索・収容 | 13 |
| (3) 藤岡市消防団 | 13 |
| ア 遺族対策 | 13 |
| イ 遺体の納棺及び搬送 | 13 |
| (4) 隣接市町村の消防団等 | 13 |
| ア 新町、鬼石町、吉井町消防団 | 13 |
| イ 万場町、中里村消防団 | 13 |
| ウ 高崎市等広域消防本部（署） | 14 |
| エ その他の消防団 | 14 |
| (5) 県外消防機関 | 14 |
| 6 群馬県警察の対応 | 14 |
| (1) 組織体制 | 14 |
| ア 対策室の設置 | 14 |
| イ 事故対策本部の設置 | 14 |
| ウ 現地対策本部の設置 | 14 |
| (2) 活動内容 | 14 |
| ア 墜落現場の確認 | 15 |
| イ 生存者の救出 | 15 |
| ウ 遺体の捜索・収容 | 16 |
| エ 遺体の検視及び身元確認 | 16 |
| 7 自衛隊の対応 | 17 |
| (1) 組織体制 | 17 |
| ア 指揮所の設置 | 17 |
| イ 部隊の編成 | 17 |
| (2) 活動の内容 | 18 |
| ア 全 般 | 18 |
| イ 部隊の推進 | 18 |

| | | |
|-----------|---------------------|-----------|
| ウ | 生存者の救出 | 19 |
| エ | 遺体の捜索・収容活動 | 19 |
| 8 | 民間協力団体の対応 | 21 |
| (1) | 日本赤十字社 | 21 |
| (2) | 医師会・歯科医師会等の医療団体 | 21 |
| (3) | 電信・電力関係 | 22 |
| (4) | 民間奉仕団体 | 23 |
| 第3 | 事故対策活動の実施状況 | 24 |
| 1 | 現場の捜索と確認 | 24 |
| 2 | 生存者の発見と救出 | 24 |
| 3 | 遺体の捜索・収容 | 25 |
| 4 | 遺体の検視・身元確認等 | 26 |
| (1) | 検 視 | 26 |
| (2) | 身元確認 | 26 |
| (3) | 遺体の安置 | 27 |
| (4) | 火 葬 | 27 |
| 5 | 衛生環境対策 | 27 |
| (1) | 医療関係者の確保 | 27 |
| (2) | 食中毒の防止措置 | 28 |
| (3) | し尿・廃棄物処理 | 28 |
| (4) | 火葬場の確保 | 28 |
| (5) | 防疫活動 | 28 |
| 6 | 遺族及び対策従事者に対する奉仕活動 | 28 |
| (1) | 上野村関係 | 28 |
| (2) | 藤岡市関係 | 29 |
| 第4 | 事故対策の教訓と課題 | 30 |
| 1 | 陸上交通確保の困難な場所での大事故対策 | 30 |
| 2 | 衛生、環境対策の重要性 | 30 |

| | | |
|---|------------------|----|
| 3 | 民間団体の奉仕活動の重要性 | 31 |
| 4 | 事故対策機関の活動の調整のあり方 | 32 |
| 5 | 事故対策等に要した経費の負担 | 33 |
| 6 | 地元における今後の対応 | 34 |

< 参 考 資 料 >

| | | |
|----|----------------------|----|
| 1 | 乗客・乗員 524 名の座席位置 | 36 |
| 2 | 国関係の事故対策本部等の設置状況 | 40 |
| 3 | 国・関係機関の現地視察状況 | 41 |
| 4 | 日航機事故対策主要事項 | 42 |
| 5 | 日航機事故対策動員状況 | 46 |
| 6 | 遺体の捜索・収容から遺族への引き渡し経過 | 47 |
| 7 | 遺体の収容・身元確認・引渡し・火葬状況 | 48 |
| 8 | 公共施設使用状況 | 54 |
| 9 | 国及び県の感謝状贈呈状況 | 57 |
| 10 | 新聞報道 | 65 |

第 1 事故の概要

澄み渡った青い空、原生林に覆われた緑の山々、青い流れの神流川原流は大古をしのばせる大自然に囲まれた人口 2 千足らず、9 割を山林で占める多野郡上野村がある。

夏とはいえ連日熱帯夜の猛暑、静寂を誇るこの上野村の奥深い山中に、コントロールを失った日航ジャンボ機が轟音を唸らせ激突炎上するという単独機では、航空史上世界最大の大惨事が発生した。

1 事故発生日時及び事故に至る経緯

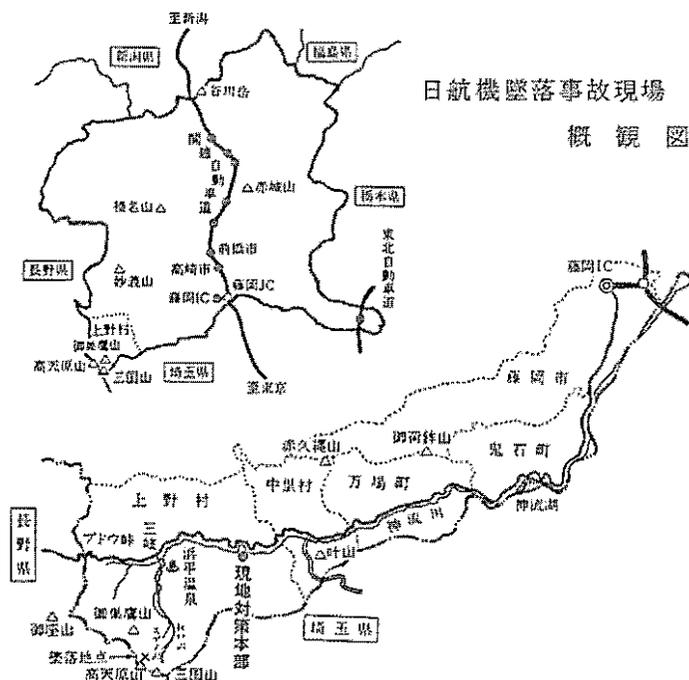
(1) 事故発生日時

昭和 60 年 8 月 12 日 (月) 午後 6 時 57 分頃

(2) 事故に至る経緯

事故機は、8 月 12 日午後 6 時 12 分に東京国際空港を離陸し、大阪国際空港に向け飛行中、午後 6 時 25 分伊豆半島東方上空で東京航空交通管制部に対し、異常事態が発生した旨の緊急連絡を行った。

それ以後の飛行ルートは、予定コースを大きく外れ不安定の飛行を続けながら富士山の西側の上空を通過し北東に向かった。午後 6 時 57 分頃、羽田レーダーの画面から同機の機影が消失した。



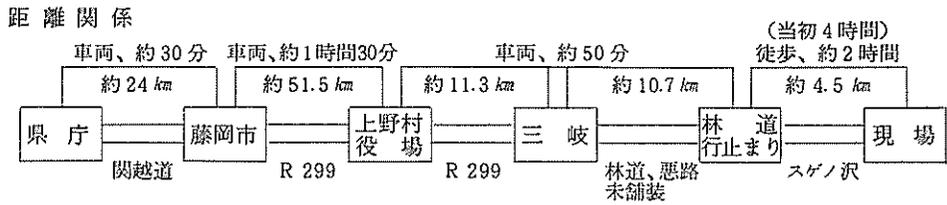
2 発生場所

群馬県多野郡上野村大字榎原字本谷 3577 番

国有林 76 林班 う小班 (高天原山系の無名尾根)

現場は、群馬県の南西端に位置し、前橋市所在の群馬県庁から直線約 44 キロメ

ートル、上野村役場から直線約 11 キロメートル、長野県境から約700メートル、
標高 1,560 メートルの地点である。



3 事故航空機

東京国際空港 18:12 発 大阪行き

日本航空 123 便 (ボーイング 747-SR JA 8119号)

所有者 日本航空株式会社

(代表取締役(当時) 高木 養 根)

機 長 高 濱 雅 己

4 被害の状況

(1) 塔 乗 者

乗員 15 名 乗客 509 名 計 524 名

(2) 死 傷 者

死者 520 名 (乗員 15 名 乗客 505 名)

傷者 4 名 (乗客 4 名)

吉 崎 博 子 さん 当時 35 歳 重 傷

吉 崎 美 紀 子 さん " 8 歳 "

落 合 由 美 さん " 26 歳 "

川 上 慶 子 さん " 12 歳 "

(3) 山林焼失

ア 焼失面積 3.3 ha

イ 損 害 カラマツ、広葉樹 3,300 本

損害額 約 400 万円相当

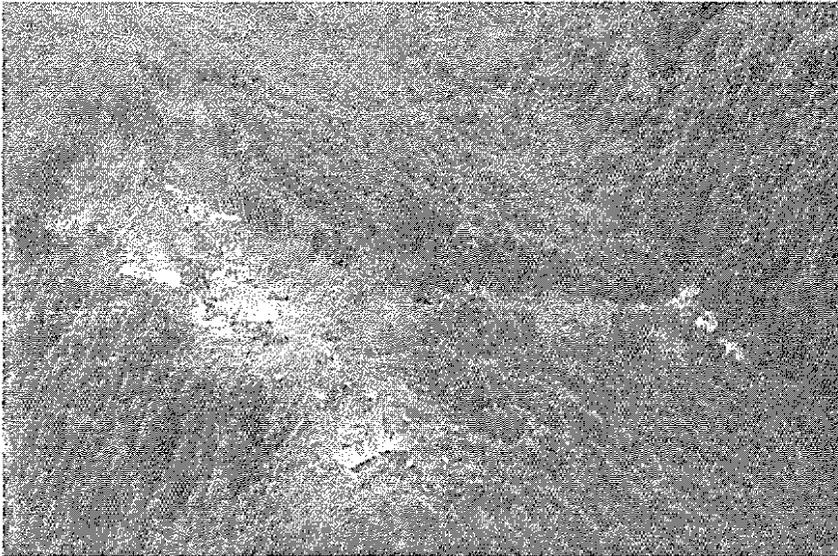
ウ 山林所有者 国

5 事故原因

現在調査中



墜落した123便と同型のボーイング747SR機



墜落現場付近の被害状況

第2 関係諸機関の対応の状況

1 群馬県の対応

(1) 組織体制

ア 対策室の設置

8月12日午後7時のテレビニュースで18時12分に羽田を離陸した大阪行きの日航ジャンボ機123便は乗客・乗員524名を乗せたままレーダーから消え、その後長野県、群馬県、埼玉県の間境付近の山中で火災を確認した等の報道により遭難事故を認知した。

同機が県内に墜落した可能性もあることから、午後8時00分、消防防災課内に唐澤消防防災課長を室長とする「日航機遭難事故対策室」を設置し、墜落地点の早期確認と生存者の救急救助活動の迅速かつ的確な対応が実施ができるよう多野藤岡広域消防本部、上野村、中里村、万場町及び各消防団に対して連絡するとともに長野県、埼玉県、県警察、自衛隊12師団等の各機関との情報交換に努め本県内墜落に備えて警戒態勢をとった。

イ 事故対策本部の設置

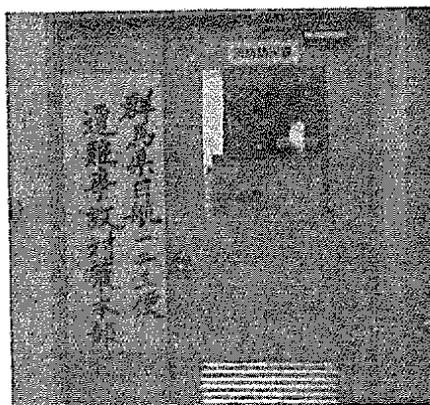
消息を絶った日航123便の行方は、関係各機関・団体の必死の活動にも係わらず、夜間、奥深い山中のため地上からの捜索は難航していた。

同夜9時30分頃、機体捜索中の自衛隊機が三県間境付近で約5キロメートルにわたり飛行機の残骸の散乱しているのを確認したとの情報を得た。こうした状況のもとに県対策体制を、更に強化する必要があると判断し、午後10時、清水知事を本部長とする「群馬県日航123便遭難事故対策本部」(庁内9部局編成)を、消防防災課内に設置し

- ① 関係各機関・団体の活動について総合的な連絡調整及び県の各機関の活動全般に関すること。

- ② 国等の連絡調整に関すること。

等について、全庁的な体制のもとに取り組むこととした。

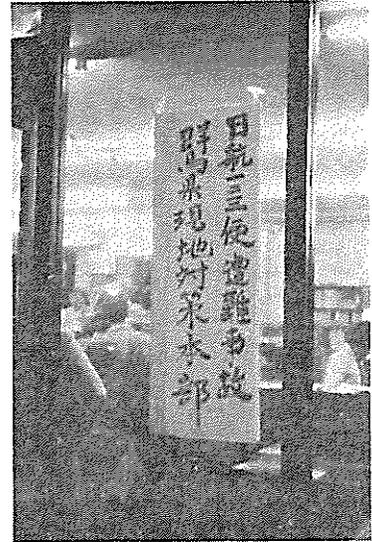


ウ 上野現地対策本部の設置

県内上野村山中に墜落が確認されたことにより、
当面の対策の重点は、

- ① 生存者の救出・救助
- ② 死体の捜索・収容

であることから、これら活動にあたる上野村・警察
・自衛隊・日赤・消防機関等の各活動が迅速・的確
に推進できるよう 13 日午前 10 時 50 分、上野村
役場内に高橋総務部次長を本部長とする「群馬県日
航123便遭難事故現地対策本部」（9 個班編成）を
設置し、上野村において事故対策にあたる各機関・



団体の活動についての連絡調整を図るとともに本部との連携を保ちつつ県の現地対
策にあたることとした。なお、現地対策本部では、上野村において対策に従事する
警察・自衛隊・消防本部・消防団・営林局・上野村等の責任者を集め、連日午後 8 時
から対策会議を開催するほか、必要に応じてその都度会議を開催し、各機関・団体
相互の連絡調整を行い対策推進の円滑を図った。

エ 藤岡現地対策本部の設置

8 月 14 日から遺体の収容活動を開始したが、墜落現場は、遠隔・急峻な山岳地
帯であり、また、上野村内の各公共施設は、対策従事者・遺族の控所等で使用して
おり 500 名を超える多数の遺体を収容・検視する施設がないことから藤岡市内に遺
体を収容することとした。

藤岡市内には、

- ① 遺体搬出・収容・検視・遺体安置・身元確認等の活動にあたる警察
- ② 施設の提供・管理等にあたる藤岡市
- ③ 日赤・医師会・歯科医師会・保健所等の医療関係機関・団体
- ④ 遺体の搬出・収容に協力する消防機関
- ⑤ 遺族等の案内・接待にあたる民間奉仕団体
- ⑥ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等のマスコミ関係者
- ⑦ 日本航空の関係者

等数千人に及ぶことから、県としては、関係諸機関・団体等の活動が迅速・円滑に

に推進できるよう、その連絡調整を図る必要を生じた。

そのため、8月16日午後2時、藤岡市役所内に、上野衛生環境部次長を本部長とする「群馬県日航123便遭難事故藤岡現地対策本部」（3個班編成）を設置し、各関係機関の活動の調整等を行い、藤岡市内における事故対策の万全を図った。

(2) 活動内容

ア 県対策本部関係

(ア) 対策全般に係る事項の関係機関・団体との総合的な連絡・調整

(イ) 本部会議の開催（8月末まで連日開催）

(ウ) 県各機関の活動に関する調整

(エ) 県各現地対策本部に対する指揮・命令

(オ) 国等との連絡・調整

(カ) 県関係の対策諸経費の確保

イ 上野現地対策本部関係

(ア) 上野村において活動する関係機関（警察・自衛隊・消防機関・各種民間団体・日航等）との間における連絡・調整

(イ) 上野村及び消防機関の活動支援並びに指導・助言

(ウ) 生存者病院搬送のためのヘリコプター出動要請（東京消防庁）の連絡

(エ) 現場活動に必要な資機材等の調達・手配

(オ) 事故現場等の一般廃棄物・し尿処理・環境衛生対策

(カ) 関係者への提供食品の食中毒防止等食品衛生の確保

ウ 藤岡現地対策本部関係

(ア) 藤岡市内において活動する関係機関（警察・自衛隊・消防機関・藤岡市・日赤・医療機関・各種民間団体・日航等）との間における連絡・調整

(イ) 日本赤十字社奉仕団の活動に関する調整

(ウ) 遺体安置所への職員の派遣

(エ) 県立病院・保健所等の医師・保健婦・看護婦・放射線技師の派遣

(オ) 県立高校施設の提供（遺体安置所等）及び管理保全

(カ) 小中学校（遺族等控所）の管理保全

(キ) 火葬希望遺族に対する便宜供与

(ク) ゴミ・し尿処理等の環境衛生対策

(ケ) 関係者への提供食品の食中毒防止等食品衛生の確保

エ 県議会関係

(ア) 現地調査

8月14日、9月4日、9月9日県議会現地調査団を編成し、上野村墜落現場及び藤岡市内の検視・身元確認状況を調査した。

(イ) 感謝決議

9月18日県議会において、本事故における救難支援並びにお見舞い等に対する感謝決議を行った。

(ウ) 一般質問

9月25日、9月26日県議会一般質問において、日航機墜落事故対策に関し、次の事項について質問が行われた。

- ① 県の初動体制とその対応について
- ② 地元の財政負担等について
- ③ 墜落現場への道路整備について
- ④ ヘリコプターの配備とヘリポートの設置について
- ⑤ 各自治体の事業執行等の影響について
- ⑥ 救援活動者等への感謝について
- ⑦ 学校教育への影響について
- ⑧ 警察活動について
- ⑨ 装備・施設等改善の必要性について
- ⑩ 処理経過と今後の見通しについて

多野郡上野村地内日航機墜落事故における救難支援並びにお見舞い等に対する感謝決議

さる8月12日夕刻、多野郡上野村地内において発生した日航機墜落事故に際しては、地元上野村・藤岡市をはじめ、県内外より多くの応援を受け、急峻なる深山奥地において、筆舌につくし難い劣悪な条件下での直接救助活動をはじめとし、後方における諸般の救難活動にいたるまで、誠に献身的なご尽力をいただき深く感謝にたえないところである。

また、各方面から寄せられた数多くの心暖まるお見舞並びに義捐金品等は、未曾有の大変事の中で一束の光として、被災関係者をはじめ、救難関係者に対し、大きな心の支えとなり、又励ましとなったところである。

よって、本議会は、これら各方面からの、多面にわたる救難ご支援に対し、議決をもって深甚なる感謝の意を表明する。

以上、決議する。

昭和60年9月18日
群馬県議会

2 上野村の対応

(1) 組織体制

ア 事故対策室の設置

村内に墜落した可能性もあり得ることから13日午前1時、植木助役を室長とする「上野村日航機遭難事故対策室」を設置し、

- ① 生存者の救出救助活動

- ② 遺体の収容方法
- ③ 遺族の対応
- ④ 県・警察・自衛隊・消防機関等との連絡
- ⑤ 対策従事者の宿泊施設の確保
- ⑥ 炊き出し
- ⑦ 報道対策

等の事故対策について検討し、職員の任務分担を定め有事に際して対応することとした。

イ 事故対策本部の設置

上野村内墜落の可能性が強くなってきた13日午前5時、役場職員を全員招集し、黒澤村長を本部長とする「日航機墜落事故上野村対策本部」を役場内に設置し、全職員編成により事故対策の万全を図ることとした。

(2) 活動内容

ア 墜落現場の確認活動

(ア) 防災行政無線による広報

8月12日夕方日航機123便が、長野県・群馬県・埼玉県の間境付近に墜落した模様のニュースを聞きつけ、午後8時に助役以下の役場職員が登庁し、村の防災行政無線により村民に一斉放送を行い、日航機墜落に関する情報を連絡するよう協力依頼した。

(イ) 墜落現場の搜索

山岳の地形を詳しく知っている村の猟友会員を招集し、午後10時、県警機動隊とともに墜落現場確認のため搜索活動を行った。

イ 炊き出し等の支援

村内2か所に炊き出し場所を設置し、地区区長及び婦人により対策従事者・遺族等に対する炊き出し、湯茶等を提供し、関係者に対する支援にあたった。

ウ 警察、自衛隊等の施設の確保

事故対策に従事する県・警察・自衛隊等の宿泊施設等を次のとおり確保した。

- (ウ) 役場庁舎 1階 応接室——— 県現地対策本部
- 2階 大会議室——— 県警現地対策本部
- 2階 ロビー——— 記者会見場

2階 商工会事務所——自衛隊連絡所

(イ) 保健センター（役場隣り）1階——遺族等控室

2階——日航職員詰所

3階——運輸省関係詰所

(ウ) 上野小学校、旧西小学校——自衛隊指揮所・宿舎

(エ) 上野中学校、勝山・新羽公民館——警察部隊宿舎

(オ) 役場庁舎 1階 ロビー——プレスセンター

エ 資機材の調達及び支援村民の確保

遺体の捜索・収容に必要な資機材の調達、手配及び支援村民を確保した。

オ 環境衛生対策

ゴミ・し尿処理等の環境衛生の確保を図った。

カ 身元未確認遺体の引取り及び遺骨の安置

身元確認がされなかった遺体について10月5日と12月20日の2回にわたって火葬を行いその遺骨を上野村役場に安置した。

3 藤岡市の対応

(1) 組織体制

事故対策本部の設置

日航機墜落により520名の遺体収容を行うこととなったが、上野村内では人員、施設に限界があるところから藤岡市内において遺体の収容・検視・身元確認・遺体安置等の一連の措置を行うこととなり、その対策の万全を図るため13日午前9時、吉野藤岡市長を本部長とする「日航機墜落事故藤岡市対策本部」（10部局編成）を藤岡市役所内に設置し

- ① 遺体収容施設の確保
- ② 遺族対策
- ③ 遺体措置に係る支援

等について、各機関団体との連絡調整を図り、その対策の万全を期することとした。



(2) 活動内容

ア 遺体収容施設の確保

多数の遺体収容が予想されるところから、市立第一小学校校庭を臨時ヘリポートとして確保するほか、藤岡市民体育館、武道館、市立第一小学校体育館を遺体安置場所として提供、各施設に職員を派遣し、その管理保全及び関係機関・団体との連絡調整にあたった。

イ 遺族等に対する支援

遺族の控え所（宿泊所）として小中学校 5 校を提供し

- 遺族相互間の連絡
- 外部からの遺族の照会
- 遺族等の健康管理

に対応するため、各校に職員及び保健婦を派遣して遺族の支援にあたった。

ウ 火葬手続きの便宜

県内での火葬を希望する遺族の多いところから、県の指導に基づき前橋市、高崎市、伊勢崎市、富岡市、埼玉県美里村の担当職員を藤岡市に出張させて死亡届・火葬許可手続きの窓口一本化を図り諸手続きの簡素・迅速処理にあたった。



火葬相談コーナーの開設（藤岡市役所）

エ 環境衛生対策

市民体育館、武道館、小中学校 5 校に 6 千人を超える対策従事者・遺族関係者・報道関係者等が集中したことにより、し尿・廃棄物の大量処理をする必要が生じ特別体制を編成してこれにあたった。

オ 民間奉仕団体の連絡調整

遺族関係者、対策従事者等の活動に対して民間奉仕団体（最高 1 日 25 団体、約 400 人）により奉仕活動に従事したが、効率的運用ができるよう人員、活動場所の割り振り等の連絡調整を行った。

4 近隣町村の対応

(1) 住民に対する広報と消防団員の待機

上野村近隣の中里村、万場町、鬼石町においては、8月12日夕刻の日航機遭難事故のニュースを知り有線放送により住民に関連情報の収集を呼びかけるとともに所属消防団員がいつでも出動できるよう待機体制をとった。

(2) 対策従事者の宿泊施設の確保

対策にあたった警察部隊の宿泊施設として

中里村 中学校 外4施設

万場町 中学校 外5施設

鬼石町 中学校 外1施設

をそれぞれ提供する等捜索活動の支援にあたった。

5 消防機関の対応

(1) 多野藤岡広域消防本部（署）

ア 事故対策消防本部の設置

8月13日午前2時30分、管内墜落の可能性もあるところから「日航機行方不明事故対策消防本部」を消防本部内に設置し、直ちに消防本部第一次配備（課長以上の職員及び藤岡消防署非番員招集）により上野村に出動させた。

更に、午前5時47分、上野村山中に墜落が確認されたことにより、消防長と藤岡市長と今後の捜索活動及び事故対策について協議するとともに、午前6時30分、斎藤消防長を本部長とする「日航機墜落事故対策消防本部」を消防本部内に設置し、消防本部（署）の全体制で事故対策にあたることとした。

イ 活動の内容

(ア) 墜落場所確認のための情報収集

8月12日午後7時50分頃、テレビニュースにより日航機が長野県と群馬県の県境付近に墜落した模様との情報により、上野村消防出張所職員（6名）が墜落場所の確認のため車両及び徒歩にて管内を捜索するとともに情報収集にあたったほか、消防本部から幹部職員を現地に派遣し指揮にあたらせた。

(イ) 消火・救急体制の確保

本県内墜落に備え山林火災に対する消防体制及び生存者の救急体制を確保する

ため、消防・救急車を上野村に待機させ消防・救急体制の万全を図った。

(ウ) 捜索・救助活動

13日午前7時25分、消防署職員6名は、捜索・救助資機材を携行し、捜索を行っていたところ、午前11時頃、墜落現場に到着し、上野村消防団員及び自衛隊員と協力し生存者4名の救出救助活動を実施した。



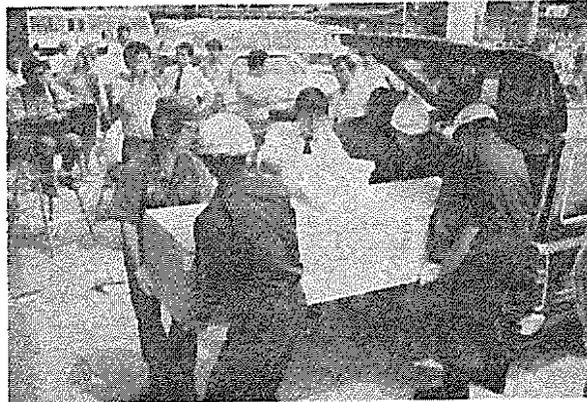
生存者の救急搬送にあたる救急隊員

(エ) 生存者の救急搬送

午後2時08分、藤岡ヘリポートに到着した生存者4名を救急車2台により藤岡市内の多野総合病院に収容した。

(オ) 遺体の搬送・収容

14日、ヘリコプターにより藤岡ヘリポートに搬送された遺体を納棺のうえ遺体搬送車に載せる一方、遺体安置所において搬送車から遺体を降りし検視班に引渡す作業を行った。(以後8月28日まで連日実施)



遺体搬送にあたる多野藤岡消防本部職員
(藤岡市民体育館)

(カ) ヘリポートの管理保全

上野村ヘリポート(上野村総合グラウンド)及び藤岡ヘリポートの土砂拡散防止を図るため消防車により散水し、ヘリポートの管理保全にあたった。

(以後8月28日まで連日実施)

(2) 上野村消防団

ア 捜索・救助活動

- 8月12日午後9時、団長・副団長の3名は、上野村役場に集合し村長等と対策を協議し、各分団長(8個分団)に対して自宅待機を命じた。

- 翌13日午前6時、上野村全消防団員160名を招集し、捜索・救助のため現場へ出動した。
- 午前10時30分、墜落現場へ到着し、午前10時50分頃生存者を発見、消防職員・自衛隊員・警察官と協力し機体にはさまれていた生存者の救出救助にあたった。



生存者の救出にあたる上野村消防団員
(上毛新聞者提供)

イ 遺体の捜索・収容

8月14日、15日の両日、消防団員50名により墜落現場において自衛隊・警察と協力し、遺体の捜索並びに収容作業を行うとともに警察部隊に対する現地案内を行った。

(3) 藤岡市消防団

ア 遺族対策

多数の遺族等が藤岡市へ集まり、混雑が予測されるところから遺体安置所、遺族控所7か所へ消防団長以下74名が案内及び警戒にあたった。

イ 遺体の納棺及び搬送

8月14日、15日、18日の3日間にわたって、消防団長以下74名は、藤岡市民体育館及び藤岡ヘリポートにおいて、事故現場からヘリコプターで搬送してきた遺体を納棺後、各遺体安置所へ収容した。

(4) 隣接市町村の消防団等

ア 新町、鬼石町、吉井町消防団

新町、鬼石町、吉井町の消防団167名は、8月16日、17日の両日、藤岡ヘリポート及び藤岡市民体育館において遺体の搬送・収容活動にあたった。

イ 万場町、中里村消防団

万場町、中里村消防団119名は、8月26日墜落現場において警察・自衛隊とともに遺体・遺品の捜索活動を実施した。

ウ 高崎市等広域消防本部（署）

高崎市等広域消防本部（署）は、8月13日生存者1名を病院転送のため高崎国立病院へ救急搬送を行うとともに同日から高崎ヘリポートの管理保全を連日実施した。

エ その他の消防団

現地に出動しなかった消防本部職員、消防団員の多数が現地（分団詰所等）及び自宅に待機する等して出動要請についても対応できる体制の確保を図った。

(5) 県外消防機関

ア 佐久広域消防本部職員及び北相木村・南相木村・川上村の各消防団員は、8月12日午後10時30分頃から御座山及び三国峠一帯を翌朝まで捜索を実施した。

イ 佐久市消防団員は十石峠、白田町消防団員は田口峠を前記時間帯にそれぞれ捜索を実施した。

ウ 秩父広域消防本部職員は、8月12日午後9時頃から志賀坂峠、八丁峠を翌朝まで捜索を実施した。

6 群馬県警察の対応

(1) 組織体制

ア 対策室の設置

8月12日夕刻「日航機123便が佐久市付近で行方不明」との情報により、午後8時警備第二課に「日航行方不明機対策室」を設置し、県機動隊・管区機動隊・第二機動隊を招集するとともに県境各警察署に対して情報の収集並びに捜索を指示する一方、県・関係市町村・自衛隊などの関係機関へ協力要請を行った。

イ 事故対策本部の設置

午後9時30分、河村警察本部長を本部長とする「日航機墜落事故対策本部」を警察本部新別館に設置し、事故対策の総合的な指揮にあたった。

ウ 現地対策本部の設置

8月13日午前1時、警察本部長を本部長とする「日航機墜落事故現地対策本部」を上野村役場内に設置し、上野村及び藤岡市内における各種事故対策の指揮にあたった。

(2) 活動内容

ア 墜落現場の確認

墜落現場の確認のため警察庁・管区警察局・長野・埼玉県警察等と緊密な連絡を取り合って捜索にあたったが、当初は、「長野県佐久市付近」「埼玉県境三国山」「長野県御座山」「上野村小倉山」等情報が交錯し確認に至らなかった。

いずれにしても墜落場所は、長野県と群馬県の県境付近の山岳地帯と推定されることから、警察庁を通じて警視庁、埼玉県警等への部隊の派遣要請を行うとともに県機動隊・管区機動隊・第二機動隊を先発部隊として墜落現場の発見・生存者救出のため必死の捜索にあたった。翌8月13日午前5時37分長野県警察のヘリコプターが墜落現場を発見、5時45分捜査第一課長が上野村職員とともに埼玉県警ヘリに塔乗し墜落現場の確認を行ったところ「上野村高天原山系の無名尾根」であることを地図上において確認した。

イ 生存者の救出

午前10時45分頃、ヘリから降下した長野県レスキュー隊員から生存者発見の報告があり、その後、警視庁ヘリから降下した本県警レスキュー隊員及び同所に到着していた上野村消防団員・自衛隊員等と協力して生存者4名を救出し、自衛隊及び東京消防庁のヘリにより藤岡市内の多野総合病院に収容した。



墜落現場で野営する機動隊員

ウ 遺体の捜索・収容

14日早朝、自衛隊の徹夜作業により墜落現場に仮設ヘリポートを設置、警察官と自衛隊員により遺体を谷底から手送りでヘリポートまで搬送し、自衛隊ヘリで藤岡市内に収容した。

遺体の捜索・収容活動は、18都道府県警察の応援のもとに大部隊を投入し以後連日実施した。

エ 遺体の検視及び身元確認

8月14日から遺体の空輸を開始し、検視場所である藤岡市民体育館に収容、医師団の協力のもとに大量の警察官を動員して検視業務を行った。

14日 111体

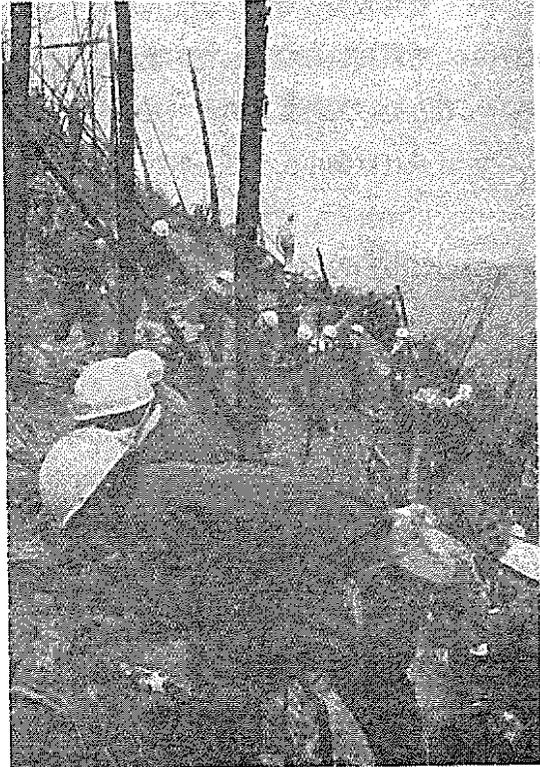
15日 156体

16日 138体

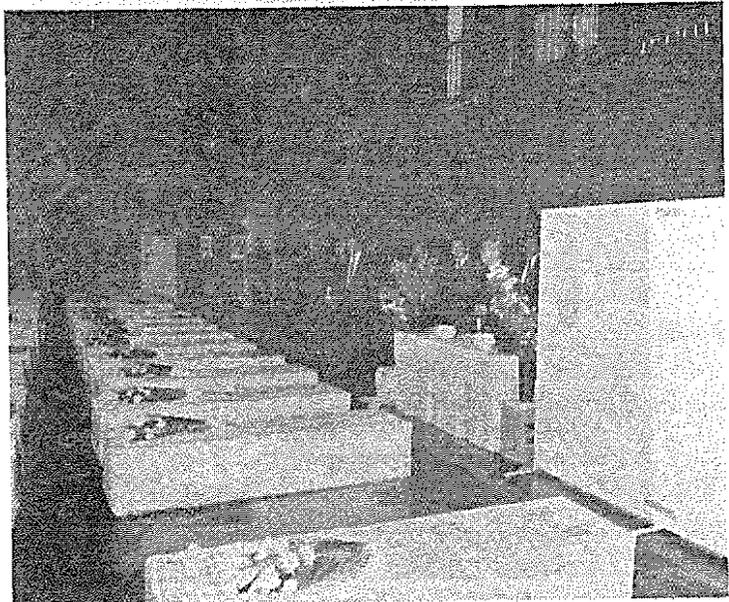
17日 59体

等多数の遺体の検視を深夜・早朝まで連日行った。

また、検視の終了した遺体の確認作業は、同市民体育館のほか2高校の体育館において、県医師会・県歯科医師会・警察医会・日赤医師等



徹底した遺体捜索にあたる警察官



遺体が安置された藤岡市民体育館

の協力のもとに行われたが、遺体の損傷は激しく、離断遺体が多かったところから4か月余の長期にわたって身元確認を実施した。

(12月19日まで連日実施)



遺体の確認にあたる警察官・医師団

7 自衛隊の対応

(1) 組織体制

ア 指揮所の設置

(ア) 陸上自衛隊

① 主指揮所の開設

8月12日午後7時50分 相馬ヶ原駐屯地

合原 12 師団長以下 158名

② 前進指揮所の開設

8月13日～10月13日 長野県北相木村小学校 上野村小学校 上野村旧西小学校 (開設順)

③ 後方指揮所の開設

8月13日～9月9日 相馬ヶ原駐屯地

第12師団副団長以下 58名

(イ) 航空自衛隊

① 主指揮所の開設

8月12日午後7時01分

入間基地 松永中部航空方面隊司令官以下 157名

② 前進指揮所の開設

8月13日～8月31日 長野県北相木村小学校 同川上第二小学校 同村営体育館 (開設順)

イ 部隊の編成

(7) 陸上自衛隊

① 基幹部隊

第12師団

② 配属部隊

第12飛行隊 外9隊

③ 支援部隊等

第1ヘリコプター団 外9隊等

(f) 航空自衛隊

① 基幹部隊

中部航空方面隊 外15隊等

② 協力部隊

飛行教育集団司令部 外10隊等

(2) 活動内容

ア 全般

陸上自衛隊は、8月12日午後9時30分、東部方面総監に対する東京国際空港長の災害派遣要請を受領し、第12師団長を災害派遣部隊長として、日航機墜落に伴う災害派遣を実施した。

派遣部隊は、警察等の関係機関と密接に協力し、生存者の救出、遺体の捜索収容等を実施した。遺体の捜索収容活動の終了に伴い10月12日午後2時30分、同空港長の撤収要請を受領し、翌13日、63日間にわたる災害派遣を終了し、部隊を撤収した。また、航空自衛隊は、8月12日午後8時33分、中部航空隊司令官に対する災害派遣要請を受領し、現場において第12師団長の下、遺体の捜索・収容活動を実施したほか、現場上空の航空機の安全を確保するため空中統制を実施した。8月30日以降現場における活動を終了し、原隊で待機した。

イ 部隊の推進

東部方面総監は、12日午後9時30分、第12師団を基幹とする部隊に対し、災害派遣を命じた。第12師団長は、予め準備していた偵察部隊を相馬原、松本各駐屯地から三国峠、ぶどう峠付近に派遣した。引続き、同日午後11時30分、群馬・栃木・長野各県に所在する部隊の第一陣約1,000名を指揮して群馬県上野村、長野県小海町、北相木村、南相木村及び川上村に推進し、13日払暁までに捜索態

勢を完了した。その他の部隊については、直ちに派遣できるよう各駐屯地に待機させた。

また、航空自衛隊は、8月12日午後6時26分、峯岡山レーダーサイトが緊急状態を示す航跡を探知し、情報収集を開始した。午後7時01分、状況確認のため百里基地からF-4EJ 2機を緊急発進させ、航空活動を開始するとともに、災害派遣を発令した。

また、午後7時40分、入間基地から47名の先遣隊の派遣に続き各基地から約800名を派遣し、地上活動を開始した。

ウ 生存者の救出

第12師団は、13日早朝航空偵察により、墜落現場を確認したのに伴い待機中の捜索部隊を地上から現場に前進させると共に午前8時49分空挺部隊と共同し、正午頃までに4名をヘリコプターによる吊り上げ可能な位置まで搬送した。この間、相馬原駐屯地で待機していた大型ヘリコプターを現場に急行させ、午後1時15分から同1時29分に4名をヘリコプターに吊り上げ、藤岡第1小学校ヘリポートまで空輸し、藤岡市内の多野総合病院へ収容した。



生存者をヘリコプターに収容する自衛隊員

エ 遺体の捜索・収容活動

(ア) 捜索・収容

遺体の捜索は、捜索部隊が現場到着後生存者の捜索と併行して開始し、8月27



機体の残がいから遺体を収容する自衛隊員

日まで連日400～600名（当初の間は、約1,000名）の勢力で実施した。

(イ) ヘリポートの構築

遺体の現場からの搬出は、ヘリコプターによらざるを得ず、そのためにはまずヘリポートの構築が急務であった。このため、第12師団は、13日午前12時30分頃から墜落現場に小型機用ヘリポートの構築を開始し、同日夕までに完成、引続き14日午前7時頃には中型機用ヘリポートに拡張して遺体の空輸態勢を完了した。また、15日から16日にかけて捜索員、物資等空輸のための大型機用ヘリポートを構築した。

(ウ) 遺体の空輸

14日午前9時14分、見分の終了した遺体を現場ヘリポートから藤岡ヘリポートに空輸を開始し、以後10月1日まで藤岡市、高崎市の各ヘリポートに、135回にわたり収容したすべての遺体を空輸した。



第2ヘリポートを利用して物資搬送にあたる自衛隊員

8 民間協力団体の対応

(1) 日本赤十字社

日航ジャンボ機行方不明のニュースにより長野・山梨県支部救護班は直ちに出勤するとともに、群馬県支部職員は出社し、前橋日赤病院救護班、新潟、埼玉、静岡各県支部も待機した。

翌13日早朝群馬県内墜落の可能性が強くなったことから群馬県支部救護班は、上野村役場に出動し待機した。

生存者4名が確認されたことから県支部の医師・看護婦により現地での救護活動を行うとともに8月14日から遺体の検索・身元確認等の業務を群馬県支部ほか7支部及び本社救護班によって関係機関団体と協力して、9月28日まで長期間、悪条件のもと献身的に実施した。

主な活動内容は次のとおりであった。

ア 墜落現場での生存者4名の

応急手当

イ 墜落現場から病院収容までの

生存者の介護

ウ 対策従事者・遺族関係者・

報道関係者等に対する応急救護活動

エ 遺体の検索・洗浄・縫合・

整復処置

オ 検視・身元確認援助

カ 医療品等の調達



藤岡市民体育館で献身的な活動にあたる日赤社員

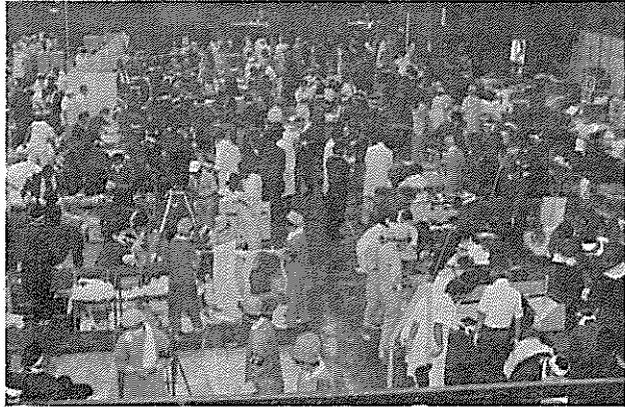
(2) 医師会・歯科医師会等の医療団体

遺体収容が開始された8月14日午前8時に遺体検視場所となった藤岡市民体育館において、群馬県警察医会に所属する近隣市医師と藤岡多野医師会員により検視を開始した。

当初は完全遺体も多く検視、身元確認は順調に行われたが、日が立つに連れて特徴のない部分遺体が収容されるにつき難航し、県下の医師会・歯科医師会・看護婦等多数の応援を得て実施した。

顔・身体的特徴・指紋・着衣・所持品などからでは身元確認が不可能な遺体の識別には、歯の治療データをもとに歯科医師による確認や生前の骨部X線写真と遺体のX線写真との照合による確認が威力を発揮した。

全遺体の遺認を目途に悪条件下のもと長期間にわたって身元確認作業を実施した結果、518人（99.6％）という脅威的な多くの遺体確認をすることができたが、残る2人については、あらゆる手段を尽したが確認に至らず12月19日をもって確認作業を終了した。



警察・医師団等による検視・身元確認

(3) 電信・電力関係

ア 臨時電話の架設

(ア) NTT災害対策本部の設置

日本電信電話(株)群馬支社及び藤岡電報電話局等にNTT災害対策本部を設置し体制を整備した。

(イ) 臨時電話の架設

上野村役場、藤岡市役所をはじめ事故対策に従事する各施設・遺族控所・報道関係者待機所等に合計約700個の臨時電話を架設した。

(ウ) 衛星通信

藤岡局の電話交換機の収容能力に限界を生じたため、衛星通信車を配備し回線の増設を図った。

(エ) 保守点検員の配置

各施設に設置した臨時電話の故障等に備えて徹夜にわたって保守点検員を配置した。

等通信連絡手段を確保し、事故対策にあたる関係機関の活動の迅速・円滑化を図った。

イ 緊急電源の確保

(ア) 東京電力対策本部の設置

東京電力(株)群馬支店及び同藤岡営業所外 9 か所に対策本部を設置し組織体制の整備を図った。

(イ) 緊急電源機器資材の配備

電源車 5 台、可搬式発電機 15 台を上野、藤岡の各対策施設に配備し電力供給を図ったほか投光器55器を上野村役場や上野ヘリポート等に配備した。

(ウ) 保守待機員の配置

一昼夜 40 名の保守待機員を各対策箇所に配置し保守管理の万全を図った。

(エ) 電力容量変更

各施設の冷房機の取り付け、投光器の設置等電力容量が増大するためこれに対応できる措置を講じる等緊急電源を確保し、各対策施設における活動が迅速・的確に行われるよう努めた。

(4) 民間奉仕団体

ア 上野村関係

(ア) 墜落現場確認のための警察官

・自衛隊員の誘導

(イ) 捜索、救助活動従事者等に対する炊き出し・接待

(ウ) 捜索・救助活動用資機材等の提供

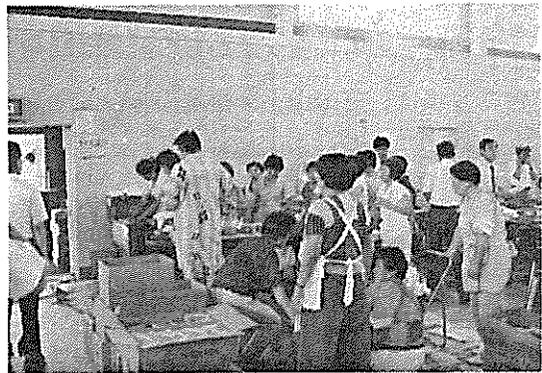
(エ) 遭難現場への歩道整備

イ 藤岡市関係

(ア) 対策従事者に対する各種支援活動

(イ) 各遺体安置所等における関係者に対する湯茶等の提供

(ウ) 遺族に対する各種サービスの提供、案内及び諸手配



遺族、対策従事員へ支援にあたる民間ボランティアの方々



藤岡インターで交通案内にあたる民間奉仕団体

第3 事故対策活動の実施状況

1 現場の搜索と確認

8月12日夕刻、日航ジャンボ機が長野県・群馬県・埼玉県境付近に墜落した模様の情報により直ちに三県警察・自衛隊・地元消防等の関係機関は墜落場所の確認のため搜索を開始した。

午後10時過ぎ墜落現場は「埼玉県境三国山」「長野県御座山」「上野村小倉山」との情報により同山付近について各県警・自衛隊・地元消防等が地上からの搜索にあたったが確認に至らなかった。

警察、自衛隊、消防機関は、搜索隊を増強し夜を徹して空及び地上からの搜索を実施したが、夜間、急峻な山岳地帯で原生林に覆われている悪条件のため搜索活動は難航を極めた。

夜明けとともに空・陸からの搜索は活発となり、午前5時37分、長野県警ヘリから墜落現場は、三国山と御巢籠山の間地点であると通報があった。直ちに群馬県警と地理に詳しい上野村役場職員（消防団員）がヘリで上空から確認したところ、現場は、上野村地内の高天原山系の無名尾根であることを確認した。

2 生存者の発見と救出

午前10時30分頃、地上から搜索にあたった上野村消防団員・自衛隊員・長野県警レスキュー隊員はそれぞれ現場に到着した。

午前10時45分頃、生存者の発見にあたった同搜索隊員が北側斜面に散乱した機体の残がいの中から生存者4名を発見、スラップ化した機体を取り除き順次救出し、現場で応急担架を作りこれに収容した。

上野村役場で待機していた日本赤十字社救護班は、生存者4名の報を受け医師2名、看護婦2名がヘリに乗り込みロープ降下により現場に到着し応急手当を行い自衛隊ヘリに収容し、上野ヘリポートへ搬送した。

また、上野ヘリポートからは、自衛隊及び東京消防庁のヘリにより藤岡ヘリポート（藤岡第一小学校）へ空輸し、引続き藤岡消防署救急車にて藤岡市内の多野総合病院に収容した。

3 遺体の捜索・収容

(1) 捜索活動

遺体捜索は、8月13日から連日警察、自衛隊等約2,000名の大部隊を投入してあたるとともに地元上野村、中里村、万場町の各消防団及び海上保安庁、営林局等がこれら捜索活動の支援にあたった。

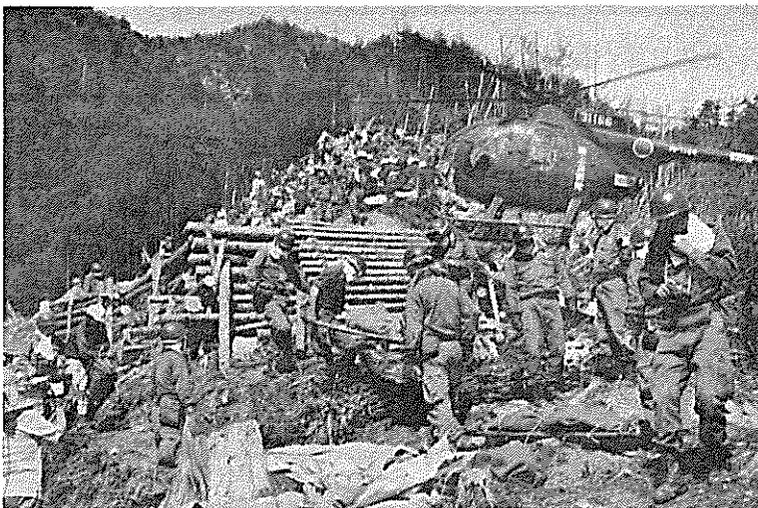
現場は、標高1,500メートルを超える尾根が重なり合う奥深い山中で上野村役場から登山口まで車で50分、登山口から墜落現場まで徒歩で約4時間を要した。このため捜索部隊は、山頂へ野営しての活動となった。

捜索範囲は、機体の破片が現場周辺約2キロメートルに飛散していることから、捜索の徹底を期するため、捜索区域を10ブロックに分け機体の下、土の中、樹木等についてスコップ・熊手・ふるい等を使用して遺体の小片や遺品等に至るまでどんな小さなものでも発見収容に努めた。なお、連日行った捜索活動は、8月27日をもって一応終了した。

(2) 収容活動

遺体の収容、搬出活動を迅速に進めるため現地に仮設ヘリポート建設の必要を生じ、自衛隊の徹宵作業により14日早朝に完成し、更に、第2ヘリポートを16日に完成させ大型ヘリコプターの離発着が可能となった。

遺体収容は、14日から開始し連日警察・自衛隊により遺体を谷底から手送りでヘリポートへ収容、同所から自衛隊ヘリで藤岡ヘリポートまで間断なく空輸した。



懸命な遺体収容作業にあたる自衛隊員



遺体の捜索にあたる自衛隊員

4 遺体の検視・身元確認等

(1) 検 視

遺体の検視は、藤岡市民体育館で警察官と県医師会、県歯科医師会、警察医会、日赤医師、大学医師及び県立病院、保健所医師、看護婦の協力のもとに行われたが、想像をはるかに超える損傷、離断遺体が多く検視業務は猛暑の中、連日深夜・明け方まで実施した。

(2) 身元確認

身元確認作業は、検視の終了した遺体を藤岡市民体育館のほか藤岡工業高校、藤岡女子高校の各体育館へ搬送し、警察官及び前記医師等によりそれぞれ行った。(8月27日に藤工高・藤女高の遺体は、藤岡市民体育に移す。更に、9月29日市民体育館の未確認遺体を県警機動センターに移し、12月19日まで確認作業を実施)

当初は、完全な遺体に近いものが多かったが、日が立つに連れ炭化、離断遺体である



検視・身元確認にあたる警察、医師団

ところから

① 遺体の誤認引渡しの絶無

② すべての遺体の確認

を基本方針として

指紋、歯型、血液型等の鑑定やX線写真撮影を徹底して行う等科学的、医学的根拠に基づく確認を4か月余りの長期間にわたって実施した。(最終的には未確認2体)

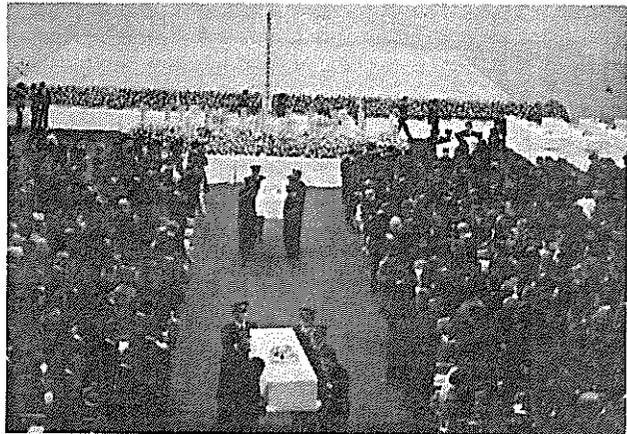
なお、誤認引渡は皆無であった。

(3) 遺体の安置

身元確認された遺体は、死体処置のうえ、藤岡高校体育館に一旦安置し、引渡し手続き終了後、遺族に引渡した。

(4) 火 葬

遺体の損傷や腐敗が激しい等のため現地で火葬を希望する遺族が多く地元藤岡市内のみでは対応しきれないところから、近隣の前橋市・高崎市・伊勢崎市・富岡市・美里村(埼玉県)の担当職員を藤岡市に派遣して火葬許可事務手続の窓口を一本化し、許可手続の簡素を図り関係6市村での火葬が迅速に行えるようとりはかった。



身元不明遺体合同火葬の出棺式
(12月20日)

火葬取扱の状況

| 高 崎 | 藤 岡 | 前 橋 | 富 岡 | 伊勢崎 | 美 里 (埼玉県) | 計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|--------------|-----|
| 218 | 99 | 33 | 11 | 8 | 20 | 389 |

5 衛生環境対策

(1) 医療関係者の確保

墜落現場での生存者の応急手当、病院収容後の救急医療の確保及び遺体の検視・検

案、身元確認などに県医師会、県歯科医師会、日赤救護班・保健所等の医師、看護婦の多数動員の必要を生じ、県・警察・医師会・日赤県支部が相互に連絡調整し医療関係者の確保を図った。

(2) 食中毒の防止措置

連日気温 30 度を超える猛暑の中の活動のため食中毒の防止について特に配意し、事故対策従事者、遺族関係者等の喫食する弁当（最高時 1 日 約 2 万食）その他の飲食物については、保健所職員が調製施設に立入り監督指導を行うほか早期喫食、冷所保管等について指導を行い食品衛生対策の万全を期した。

(3) し尿・廃棄物処理

上野村・藤岡市内で活動する対策関係者は、1 日約 1 万 5 千人におよびこれに伴い必然的にし尿（バキュームカー約 100 台）、ゴミ等の一般廃棄物（約 500 t）が大量に放出された。この処理には上野村、藤岡市においては特別処理体制を編成し迅速に対応した。

(4) 火葬場の確保

520 の多数遺体があるところから県では、県内の全火葬場の処理能力を算出し、その体制を整えたが、1 日の身元確認数を勘案し藤岡市から 20 キロメートル圏の火葬場 6 か所を確保しこれに対応した。

(5) 防疫活動

遺体の検視場所となった藤岡市民体育館周辺並びに水の流末側溝についてボーフラ防除・ウジ虫・悪臭の発生防除のため薬剤を散布し防疫を行った。

6 遺族及び対策従事者に対する奉仕活動

(1) 上野村関係

墜落場所となった上野村（人口約 2,000 人）に事故対策関係者多数（当初 1 日 約 5,000 人）が、活動にあたったため村の諸行事を一切中止し、区長・婦人会・猟友会・農協・森林組合・商工会等 27 団体約 300 人を始め村民が一体となって遭難者の心痛を思い寝食を忘れて奉仕活動に取り組んだ。

主な活動内容は、次のとおりであった。

ア 墜落現場確認のための警察、自衛隊員の誘導

イ 対策従事者に対する炊き出し、湯茶接待

ウ 捜索・救助活動用資機材等の提供

エ 遭難現場へ通ずる歩道の整備

オ 遺族に対する案内・接待

(2) 藤岡市関係

遺体の収容、検視場所となった藤岡市内には、遺族関係者約4,000人のほか警察・医師団等の対策従事者、報道関係者多数が集まった。連日の猛暑にもかかわらず支援活動にあたるため、藤岡市内をはじめ県内のボランティア団体が自主的に来藤しその支援活動にあたった。

奉仕団体の活動は、検視場所の藤岡市民体育館・藤岡ヘリポート・遺体の収容された藤岡高校・藤岡工業高校・藤岡女子高校・遺族控所となった市内5小中学校等に出向き遺族関係者、対策従事者等に対する支援活動に46団体延べ約5,000人が47日間の長期にわたって行い、寝食を忘れ献身的な奉仕活動に全国各地から激励や称賛の言葉が数多く寄せられた。

主な活動内容は、次のとおりであった。

ア 対策従事者に対する各種支援活動

イ 各遺体安置所における関係の湯茶等の接待

ウ 遺族に対する案内、諸手配等の各種サービス提供

エ 市民体育館、遺体安置所周辺の交通整理・誘導



遺族、対策従事員の支援にあたる藤岡婦人防火クラブ員

第4 事故対策の教訓と課題

1 陸上交通確保の困難な場所での大事故対策

事故現場は、上野村のほぼ中心部にある役場から車で50分、更に、沢づたいに徒歩4時間という人跡未踏ともいえる極めて急峻な山岳地帯であり、地上からの部隊投入に長時間を要する場所で、救援活動の実施が著しく困難な地点であった。更にまた、事故発生直後は夜間における活動という悪条件が重なり航空機による空からの捜索活動も制約された。

このような条件下で、迅速・的確な救援活動を行うためには、特に夜間においても航空機による事故発生現場の確認と現地への部隊投入が円滑に実施し得る体制整備が不可欠である。また、それとあわせて、対策従事者や必要物資等の航空機による輸送や大量の遺体搬送などが円滑に行えるような態勢の整備を図る必要がある。

2 衛生、環境対策の重要性

今回の事故対策を振り返ってみると、衛生、環境対策について、予想もし得なかったほど多くの喫驚な業務が生じた。

死者520人という史上希れな事故であったため、非常に多数の事故対策関係者、遺族報道関係者等が一地域に殺到したことや猛暑の中であったことなどから、し尿及び一般廃棄物の処理、食中毒防止等食品衛生、防疫関係業務など極めて緊急かつ重要な業務が多く生じ、その円滑な処理に当たっては大きな努力を要した。

また、藤岡市の遺体収容場所に次々と遺体が搬送されるにつれ、遺体の手当（洗浄、縫合等）、検案、検視、身元確認など医師、看護婦等による業務が日々増大し、これに当たる者の確保や活動の調整が非常に大きな課題となった。これに対し幸い県医師会、県歯科医会、県看護協会、日赤、県立病院、保健所医師及び医療技術者などの極めて献身的な活動が得られ大きな支障を生じることもなく対応することができた。特に身元確認については遺体の損傷等が著しく、極めて困難な状況にあったが、関係者の血のにじむような努力によって、520人中518人（99.6%）の確認を行うことができたのである。

更に、遺体の身元確認が進むにつれて、現地において一刻も早く茶毘に付して帰宅したいという遺族が多くなり火葬場の確保が大きな課題となった。これに対して、県の調整によって、藤岡市から約20km圏内の各火葬場の特別な協力を得ることとしたほか、

その手配や手続きについても少しでも早く行えるよう関係各市町村の協力態勢（藤岡市役所に総合窓口を設置等）を敷くことによって、適切な対応をすることができた。

このように今回は、関係各機関の並々ならぬ努力によって各業務を円滑に実施することができたが、今後、この種事故発生に際しては、これにあたる体制整備について、十分配慮しておく必要がある。

3 民間団体の奉仕活動の重要性

事故発生場所となった上野村や遭難者の遺体収容、身元確認等の場所となった藤岡市には、8月13日の早朝から救難救助対策に当たる人達や遭難者の家族など多数の人達が殺到した。

これに対して、上野村及び藤岡市においては、いち早く対策本部を設置して、これらの人達に対する対応の万全を期するための体制を整備してこれに当たった。

特に、遭難者の家族等極めて多数の人達を迎えた藤岡市においては、市内の小中学校5校を家族等の休息控所として提供し、市職員を派遣して、その適切な対応に努めた。しかしながら、約4,000人にも及ぶ多数の人達は、それぞれ肉親や家族の遭難という極めて悲惨な状況下で、しかも、1年のうちで最も厳しい暑さが続く中であって、不安といらだちと苦痛は次第に高まりをみせ、その場の状況は、非常に重苦しく、険悪な様相さえ示すようになってきた。

こうした中で、これらの人達のいらだちと苦痛を少しでもやわらげてあげたいという考え方をもちた民間団体の人達が、次々と各控所に出向き、冷水おしぼりの提供、各種の案内や手配などのサービスのほか、交通の要所要所における道路案内や交通整理など親身な奉仕活動を積極的に開始した。更にまた、遺体が続々と収容されはじめると遺体処理場や遺体安置所における極めて厳しい条件の中であって、多くの遺族や対策に当たる人達に対しても同様の奉仕活動を展開した。そして、これら奉仕活動は、47日間にわたりそれにあたった団体は全部で60団体、活動に当たった人は延5,300人にも及んでいる。

また、遭難場所の確認や生存者の救出に当たって大きな活躍をした上野村猟友会、遺体の収容、検視、身元確認などに寝食を忘れて当たった県医師会・県歯科医師会・県看護協会・日本赤十字社等民間の各種団体の極めて献身的な活動は今回の事故対策の中で、特出したことであるといえよう。とりわけ、520人もの犠牲者のしかもその大部分が損

傷の極めて激しい遺体となった中で、懸命の努力を重ねて520人中518人（99.6％）までの身元確認をなし遂げた県医師会、県歯科医師会等の活動は極めて特出したことである。

このようなことからみて、こうした大事故の発生に際しては、単に行政機関や公的機関の活動のみでは到底十分な対策を講ずることは困難であって、各種の民間団体や民間奉仕団体の積極的な協力が得られてはじめて十分な対策を講ずることが可能となるといえる。

4 事故対策機関の活動の調整のあり方

今回の事故は、長野との県境の極く近く（約700 m）に発生したものであって、その場所の確定にかなり長い時間を要したことが大きな特徴である。

国の各機関においてはこのような中にあっても、直ちに活動が開始できるが、県や市町村の段階になると事故発生の場所のいかんによってその対応が当然大きく異ってくる（主体的にあたる場合と応援として当る場合）から、発生現場の特定は、対策活動開始に当たって確認すべき大きな事項の一つである。

今回の事故発生に当たって、国においては事故発生後直ちに、運輸大臣を本部長とする対策本部を設置して関係機関の大量動員による活動を開始した。こうした中で、本県においても事故発生後直ちに消防防災課長を室長とする事故対策室を設置し、更に、その約2時間後の午後10時に知事を本部長とする事故対策本部を設置して、関係諸機関による捜索活動の調整指導等を図ったほか、発生現場が本県内である場合における対策活動の万全が期せるような態勢整備を図りつつ発生現場の確定を待った。そして8月18日午前5時37分、場所の確定とともに本格的な活動を開始するとともに、上野村に県現地対策本部を設置した。

こうした状況の中で、国、警察、県、市町村の各機関は、それぞれ独自の判断に基づき応急活動を着々と進めて行った。しかし、これら各機関の活動を更に円滑に実施するためには、当然各機関の活動を総合的見地から調整する必要性が生じてきた。このため、翌13日午前の上野村役場において、第1回の連絡調整会議を開催し、その後においても毎日定時又は随時に開催し、活動上のあらゆる事項についての連絡調整を図った。しかし、こうしたことに対して、一部に、県がもっと強い調整機能を発揮するための体制を敷くべきであるという強い意見が出された。

県は、これに対して十分検討を行った結果、「現在の対策活動は全体的にみてほぼ適切に行われており、この方式の変更は必要としない。」という考え方にたった。その理由は、①前記の経緯によって各機関が独自の判断に基づいて活動を開始し、既に軌道に乗っている。②関係機関の連絡調整は、現在の方式で効果を挙げている。③この時点において調整方式等を変えることは、むしろ活動全体に混乱が生ずることとなる等の事情を考慮したものである。このように今回の事故対策は、関係各機関の相互連絡方式を中心とする調整によって活動を続けてきたところである。

しかしながら、現時点において振り返ってみると、これだけ規模が大きくしかも特殊な要素を多くもつ事故が発生した場合には、国レベルによる相当強力な調整機能をもった機関を現地に設置し、国、県、警察、市町村、消防機関、事故原因者等の各関係機関に対して、総合的にしかも高い次元からの調整を行う必要があったのではないかと考えられ、また現地においては、そうした声がかかなり強くあった。

5 事故対策等に要した経費の負担

今回の事故対策については、各機関の出動人員や出動日数が非常に多かったこと等から、それに要した経費も相当多額になっている。しかし、その経費の最終的な負担をどのような形で行うか等についての制度や考え方は現在のところ全く確立されていない。

このような事故発生に当たって各機関が実施する対策業務の中には、その機関のもつ本来の役割から当然処理すべき業務もあるが、今回の事故のように、種々の特殊性をもつ事故対策に当たっては、その機関が当然処理すべきものの枠を越えて実施しなければならないものも多くある。

今回の事故対策に要した経費の負担については、上記のような考え方にたつて、県及び関係市町村と事故発生の原因者たる日本航空との間で十分協議を行い、前者については当面行政側（県及び市町村）において負担することとし、後者については原因者たる日本航空

(単位：百万円)

| 区 分 | | 金 額 | 左 の 負 担 | |
|-------|--------------------------|-----|---------|-----|
| | | | 日 航 | 行政側 |
| 群 馬 県 | | 762 | 455 | 307 |
| 市町村等 | 上 野 村 | 32 | 26 | 6 |
| | 藤 岡 市 | 21 | 18 | 3 |
| | その他関係市町村等 (10市町村、3組合) | 21 | 16 | 5 |
| | 計 | 74 | 60 | 14 |
| 合 計 | | 836 | 515 | 321 |

空において負担するという事で合意に達し、上表のような区分によって、負担するこ

ととした。

しかしながら、県及び市町村が負担した前記の経費に対して、どのような形で財源措置がなされるかについては、現在（61.2.17）のところ何ら明確なものはなく、各方面から強い関心が寄せられている。

今後このような事故が発生した場合、関係機関がそうした面での不安をもつことなく対策に当たることができるよう、十分な検討がなされるべきであるといえよう。

6 地元における今後の対応

墜落事故による犠牲者の遺体は完全なものが少なく部分遺体や炭化した遺体など身元確認ができない遺体も相当数予想され、事故発生地である上野村では、いずれこれら遺体の火葬後における遺骨の措置について、身元確認作業の段階からその対策に苦慮していた。

このような中で関係者の懸命な努力にもかかわらず、身元が確認されなかった遺体について10月5日と12月20日の2回にわたって火葬が行われ、その遺骨は上野村に引渡された。上野村においては、この遺骨を安置する納骨堂の建立や諸霊を慰める慰霊碑の建設については、後々に対する大きな課題であるとして当初から村長を中心に極めて熱心な取り組みを行ってきた。

その結果、事故発生の約5か月後の昭和61年初めに、520名の霊を祭り慰めるため、納骨堂をはじめとする諸施設を建設するとともに、これら施設を交通安全祈願の場とすること等を目的とする財団法人慰霊の園（理事10人（上野村関係6人、遺族3人、日航1人）理事長、黒澤丈夫 上野村長）を設立し、この法人の活動を通して犠牲者の霊を祭り、惨事を風化させないための諸事業を実施することとした。

この法人が実施する具体的な事業は、①「慰霊の園」の建設及び維持管理、②納骨堂及び慰霊碑の建設、③慰霊祭及び交通安全祈願祭の執行であり、その総事業費は10億円余が予定されている。

今後、この法人の事業を推進していくためには、多くの課題もあるが、関係各位の熱意と尽力、更には各方面の幅広い協力によって、是非ともこの事業が円滑に実施されることを強く念願するものである。

< 参 考 资 料 >

1 乗客・乗員524名の座席位置

(敬称省略)

2階席

| | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 舘 征 矢(42) | 佐 田 弘(53) | |
| 曾 田 秀 治(55) | 小 西 宏(52) | |
| 藤 原 米 雄(58) | 塩 田 芳 郎(61) | 小 野 治 雄(66) |
| 吉 岡 佐 幸(7) | 吉 岡 秀 倫(8) | 吉 岡 秀 次(59) |
| 石 原 孝 一(55) | 小 沢 孝 之(29) | 黒 田 康 弘(45) |
| 鄭 順 徳(46) | 勝 浦 和 男(37) | 沼 田 清(54) |
| 立 花 佑 治(48) | 植 田 桂 子(41) | 鶴 町 昭 雄(35) |
| 前 田 光 彦(33) | 酒 田 哲 雄(35) | 柴 田 宏(54) |

| | | |
|-------------|---------------|-------------|
| 井 元 淳 光(48) | 土 居 満 代(42) | 白 坂 達 也(40) |
| 児 玉 洋 介(20) | 樋 畑 進 二(42) | 谷 間 寛(44) |
| 工 藤 由 美(24) | 新 田 改 三(26) | 石 井 裕 之(59) |
| 大 橋 太 郎(9) | 大 橋 美 知 子(35) | 大 橋 理 恵(8) |
| 井 原 敏 二(50) | 井 原 フジエ(45) | 井 原 知 恵(14) |
| 宮 根 将 行(45) | 白 井 俊 雄(56) | 大 門 義 信(46) |
| 大 福 由 樹(23) | 菊 地 豊(43) | 半 田 春 海(56) |
| 竹 内 誠 一(26) | 岡 山 博 一(32) | 木 田 一 男(47) |
| 富 田 真 理(21) | 南 慎 二 郎(54) | 一 木 允(56) |

| | | |
|---------------|-------------|---------------|
| 金 井 孝(51) | 浅 野 潤 一(36) | 小 谷 房 次 郎(44) |
| 安 田 政 市(52) | 吹 田 暁 子(46) | 三 崎 洋(49) |
| 竹 永 修 司(24) | 平 野 一(29) | 島 本 喜 内(61) |
| 井ノ上 一 浩(15) | 多々良 千代美(19) | 田 淵 滋(19) |
| 田 淵 純 子(14) | 田 淵 陽 子(24) | 池 孝 三(42) |
| 鹿 嶋 弘(65) | 河 原 道 夫(64) | 前 田 光 俊(58) |
| 東 谷 亜 紀 子(10) | 東 谷 敏 子(36) | 東 谷 志 郎(36) |
| 生 駒 隆 子(26) | 保 川 隆(21) | 秋 山 寿 男(48) |
| 岡 本 武 志(69) | 岡 本 明 子(60) | 中 山 健(52) |
| 小 谷 友 美(8) | 小 谷 直 也(6) | 小 谷 朝 美(5) |
| 高 橋 徹(58) | 白 井 まり子(26) | 山 本 謙 二(49) |
| 辻 寛 太 郎(47) | 川 崎 格(41) | 雑 古 祐 紀 代(19) |
| 佐 藤 早 苗(39) | 佐 藤 喜 彦(12) | 佐 藤 公 由 江(10) |

| | |
|-------------|---------------|
| 石 野 喜 一(34) | 本 田 寧(38) |
| 越 智 良 子(28) | 川 口 富 士 子(23) |
| 和 田 浩 伸(25) | 井 上 幹 雄(41) |
| 堀 岡 竜 夫(53) | 吉 村 謙 之 助(65) |

操縦席

| | |
|-----------|---------|
| 福 田 博(46) | 高 浜 雅 己 |
|-----------|---------|

乗務員

| | |
|-----------------|---------------|
| 波 多 野 純(39) | 木 原 幸 代(30) |
| 宮 道 令 子(30) | 対 馬 祐 三 子(29) |
| 白 拍 子 由 美 子(25) | 大 野 美 紀 子(26) |

| |
|-------------|
| 岡 本 正 至(56) |
| 堤 太 志(31) |

| | |
|---|---|
| ト | イ |
|---|---|

| | |
|---------------|---------------|
| 栗 山 良 治(52) | 竹 島 伸 幸(25) |
| 村 山 和 子(38) | 松 下 優 子(23) |
| 松 本 亜 規 子(21) | 麻 木 良 子(27) |
| 高 坂 行 雄(26) | 大 久 保 聡 昭(50) |
| 土 居 高 子(19) | M. ハンソン(40) |
| 河 添 千 里(59) | 石 倉 六 郎(41) |

| | |
|---|---|
| 記 | 膳 |
|---|---|

| | |
|---------------|---------------|
| K・マッシューズ(28) | 西 口 昌 子(25) |
| 中 村 悠 紀 子(38) | 新 井 健 次(32) |
| 竹 原 春 平(45) | 房 谷 清 茂(56) |
| 中 井 敬(28) | 高 橋 晟(51) |
| 中 野 絵 理 子(23) | 吉 田 仁 美(28) |
| 林 正 典(45) | 三 好 恵 子(28) |
| 高 杉 正 行(47) | |
| 矢 田 千 晶(23) | 矢 田 万 由 利(45) |
| 栗 原 陽 子(29) | 栗 原 崇 志(33) |
| 小 谷 敏 一(37) | 小 谷 洋 子(29) |
| 吉 田 由 美 子(24) | 滋 賀 喜 作(45) |
| 竹 下 元 章(48) | 西 山 俊 江(26) |
| | 光(3) |

| | |
|-------------|---------------|
| 藤 井 利 夫(55) | 志 間 和 徳(30) |
| 住 本 啓 示(28) | 和 田 浩 太 郎(34) |
| 塔 本 正 吾(47) | 辻 昌 憲(39) |
| 大 島 九(43) | 小 宮 勝 広(42) |

| | |
|------|-----------|
| (49) | 佐々木 祐(39) |
|------|-----------|

| | |
|---------------|---------------|
| 赤 田 真 理 子(31) | 藤 田 香(28) |
| 吉 田 雅 代(27) | 海 老 名 光 代(28) |
| 大 野 聖 子(24) | 波 多 野 京 子(24) |

| |
|-------------|
| 花 川 忠 彦(55) |
| 中 島 誠(38) |

| |
|---|
| レ |
|---|

| | |
|---------------|-------------|
| 吉 備 雅 男(45) | 井 口 利 明(50) |
| 岸 本 智 佳 子(23) | 吉 田 知 太(29) |
| 麻 木 喜 一 郎(31) | 服 部 征 夫(42) |
| 原 田 敬 久(28) | 原 田 恵(24) |
| E・アンダーソン(48) | 岡 田 光 雄(51) |
| 牧 園 弘 志(37) | 諏 澤 霖(72) |

| |
|---|
| 室 |
|---|

| | |
|-------------|-------------|
| 箕 田 一 行(35) | 細 川 順 治(54) |
| 加 藤 博 幸(21) | 塚 原 幹 夫(29) |
| 児 玉 英 里(42) | 小 西 義 員(58) |
| 陶 山 林 邦(50) | 佐 藤 保 久(44) |
| 吉 田 哲 有(35) | 野 口 賢(38) |
| 高 曲 康 夫(29) | 河 野 浩 子(30) |
| 白 井 信 吾(47) | 木 場 貞 夫(51) |
| | 伊 藤 昭 平(20) |
| | 芳 崎 務(49) |
| 小 谷 昭 則(36) | 小 谷 かよ子(32) |
| | 真 理(2) |
| 横 谷 郁 雄(41) | 酒 井 由 雄(27) |
| 西 山 学(4) | 泉 谷 淳 子(20) |

| | |
|-------------|-------------|
| 山 内 秀 樹(41) | 谷 池 和 男(55) |
| 岩 井 宏 之(43) | 岡 本 強(37) |

| | | |
|---------------|-------------|---------------|
| 山 登 道 雄(45) | 増 田 照 雄(53) | 市 川 一 彦(53) |
| 吉 岡 美 代 子(55) | 鶴 木 利 郎(28) | 滝 井 千 合 子(21) |
| 池 田 隆 美(53) | 奥 田 勝(38) | 奥 田 和 志(9) |
| 鈴木 秀(50) | 今 村 欣 治(41) | 堀 内 幸 一(54) |
| 豊 島 富 美 男(34) | 志 水 則 昭(49) | 川 戸 利 文(60) |
| 長 田 鎮 吾(84) | 小 宮 敏 幸(27) | 小 宮 悦 子(26) |

| | | |
|---------------|---------------|---------------|
| W. ウォラック(26) | 中 川 英 二(38) | 李 恵 慶(23) |
| 佐 藤 陽 太 郎(53) | 中 田 美 加(12) | 中 田 加 代 子(38) |
| 塚 原 伸 晃(51) | 能 仁 千 延 子(22) | 美 谷 島 健(9) |
| 長 岡 正 通(37) | | 布 施 喜 徳(27) |
| 巻 田 進(35) | 蛭 田 律 子(33) | 宮 奥 誠 一(52) |
| 明 石 守(54) | 勝 美 隆(32) | 中 別 府 弘(48) |
| 山 口 昌 洋(5) | 山 口 勝 子(32) | 山 口 勝 人(35) |
| | 裕 子(2) | |
| 李 國 光(58) | 楊 榮 丹(22) | 張 麗 娟(27) |
| 矢 田 敏 雄(50) | 早 川 宏(44) | 滝 下 裕 史(11) |

| | | |
|-------------|---------------|----------------|
| 千 田 典 子(47) | 千 田 周 平(47) | 千 田 美 樹(20) |
| 松 本 圭 市(29) | 小 沢 慶 太(26) | 藤 原 美 代 子(50) |
| 四 方 修 文(39) | 石 井 博 美(15) | 石 井 幸 江(36) |
| 河 口 博 次(52) | G・モローニ(49) | アンドレア・モローニ(16) |
| 中 島 博(36) | 藤 島 克 彦(47) | 松 尾 省 一(35) |
| 猪 飼 潤(7) | 猪 飼 小 夜(9) | 猪 飼 善 彦(37) |
| 角 野 恭 三(45) | 川 上 竜 太 郎(8) | 川 上 紗 也 子(5) |
| 島 野 佳 男(40) | 川 上 君 子(34) | 川 上 陽 之 介(5) |
| 安 田 侃(49) | 川 北 京 子(22) | 橋 詰 真 次 郎(54) |
| 岩 園 忠 弘(43) | 山 城 榮 賢(35) | 長 谷 川 鉄 治(45) |
| 西 村 庄 二(52) | 田 中 滋(44) | 植 田 嗣 治(55) |
| 古 川 剛(12) | 古 川 恵 美 子(14) | 宇 沢 克 彦(45) |
| 木 内 静 子(17) | 山 岡 薫(14) | 山 岡 知 美(16) |

| | | |
|----------|----------|-----------|
| 近藤芳城(61) | 浅野真一(34) | 岡本大造(43) |
| 岸本典子(27) | 新田温子(42) | 山本仁之(44) |
| 園田昌子(24) | 河瀬尋文(24) | 額川三郎(54) |
| 福田慎一(27) | 久保克彦(44) | 片桐右弼(41) |
| 寺西雅次(23) | | 松尾敏明(37) |
| 橋本礼子(28) | 山本明美(30) | 川井徹夫(52) |
| 矢野正数(50) | | 新井立悦(32) |
| 浮田立子(22) | 浮田玲子(47) | 柏谷伸一郎(25) |
| 渡利京子(23) | 福田典子(7) | 福田清一郎(51) |
| 森中慎夫(46) | 神林展明(33) | 寒川益子(34) |
| 中村政昭(18) | | 貴志論(4) |

| | | |
|-------------------|-----------|-----------|
| 貴志絵里子(7) | 貴志治(45) | 貴志真理子(35) |
| 大幸教弥(13) | 大幸義典(43) | 大幸節子(36) |
| 日永田真左子(31) | 日永田利美(34) | 日永田真由美(7) |
| 半田慶三(45) | 田代香織(8) | 前田春奈(6) |
| 田中透(23) | | 増田勇生(26) |
| 増永忠彦(66) | | 谷口正勝(40) |
| 井上久子(58) | 井上理抄(9) | 井上健人(6) |
| 深水諫(43) | 白石憲市郎(37) | 森良一(36) |
| 中上岑子(38) | 中上義哉(12) | 山本昌司(27) |
| 中上佳代子(10) | 小田陽子(12) | 小田浩二(15) |
| 上坂久枝(31) 理枝(3) | 上坂辰男(33) | 吉村一男(43) |
| 四方秀和(22) | 岩切大樹(3) | 岩切伸司(34) |
| 斎藤真由美(20) | 斎藤直美(23) | 岩切圭子(34) |
| | 川口寿(40) | 落合由美(26) |
| | 増田了一(38) | 園永昌彦(52) |
| | 出寿子(22) | 出梅治(33) |

| | |
|-----------|----------|
| 湯川昭久(56) | 堂本智琴(6) |
| 戸室泰太(40) | 葉瑞祥(37) |
| 須貝和郎(38) | 溝端令子(25) |
| 片岡純子(30) | 片岡麻季(4) |
| 奥川利明(39) | |
| 大竹園雄(44) | |
| 高橋康悦(54) | |
| 西井正樹(27) | |
| 田村美穂子(19) | 森明子(19) |

| | |
|-----------|--------------------|
| 大幸綾子(12) | クリストファー(16) |
| 上村登(51) | |
| 田代佐智子(36) | 田代佳幹(7) |
| 伊藤寛之(29) | 伊藤寿信(50) |
| 村上良平(43) | 伊藤誠子(45) |
| 中尾重喜(45) | 山本敏雄(36) |
| 園武宜孝(43) | 柏原勇太(6) |
| 田川英次(41) | 柏原幸子(38) |
| 中村健児(52) | |
| 市浦昭(47) | |
| 吉崎充芳(9) | 吉崎博子(34) |
| 西川忠男(42) | 立花昇(45) |
| 森田麻実(22) | 松元美智代(23) |
| 藤本正裕(23) | |
| 出啓介(3) | |
| 中島篤子(33) | 中島香奈子(4) 美奈子(0) |
| 川上英治(41) | 川上和子(39) |

| | |
|-------------------|----------|
| 堂本裕子(32) 智晶(3) | 石田一雄(60) |
| H・ゲルケ(33) | 榊原勝(52) |
| 田中愛子(26) | 岡本豊(21) |
| 片岡三千雄(37) | 山本幸男(48) |
| | 永田昌令(53) |
| | 布施正行(32) |
| | 長岡明男(24) |
| 加藤典子(20) | 野上幸雄(33) |
| 鷲野恵子(19) | 福田武(56) |

| | |
|-------------|----------|
| キム・オクチャ(42) | スコット(13) |
| 林拓也(19) | 前瀬泰吾(18) |
| 前田真智子(39) | 田代豊(34) |
| 伊藤和美(13) | 浦上郁夫(47) |
| 伊藤妙子(17) | 本郷晴喜(41) |
| 富岡享(46) | 中川秀則(40) |
| 柏原愛子(12) | 木村典定(54) |
| 柏原喜弘(38) | 徳満博愛(40) |
| 田中稔夫(54) | 中西稔剛(38) |
| | 永富勝子(40) |
| 吉崎優三(37) | 吉崎美紀子(8) |
| | 徳田浩康(46) |
| 本道代(19) | 小川知佐子(8) |
| 林義明(44) | 武内芳子(23) |
| 小西英雄(45) | 武田澄子(41) |
| 徳丸信広(45) | 若本昭司(50) |
| 川上慶子(12) | 川上咲子(7) |

| | | |
|---------------|----------|-------------|
| 末川久信(59) | 奥村隆亮(50) | 須永和美(35) |
| 中埜肇(63) | 芦田育三(49) | 西山竜夫(33) |
| 白井克己(52) | 新井健作(41) | 新井真澄(12) |
| 吉川元啓(31) | 佐藤素子(29) | 西条善博(43) |
| 島田拓夫(47) | | 野中哲人(42) |
| カリヤン・ムカルジ(41) | トリブタ(35) | チャウチャリア(40) |
| 大貫富太郎(40) | | 池田五郎(41) |
| 西川博之(28) | | 渡辺昭夫(58) |
| 中野忠男(34) | | 豊島良紀(32) |
| 土岐竜幸(26) | 池上重雄(27) | 下村寛治(47) |
| 出原昭一(53) | 西川耕司(36) | 石崎恵美子(36) |

| | | |
|--------------|--------------------|-------------------|
| J・クラウベルト(53) | 新垣裕子(11) | 新垣芳男(43) |
| 森秀樹(49) | 矢野嘉宏(24) | 矢野敦子(26) 忠祐(2) |
| 八木橋昭信(33) | 菊地仁(31) | 内藤実(33) |
| 長谷川俊介(30) | | 田中一文(36) |
| 桜井繁子(23) | | 水落哲子(52) |
| 沼倉愈勇(43) | | 瀬良直司(36) |
| 柏崎幸彦(32) | 益田和彦(49) | 有田秀止(29) |
| 石川貞昭(52) | | 小林法久(43) |
| 山崎章(47) | 清水さえみ(29) 宗典(1) | 長井秀人(26) |
| 内海浩一(25) | 栗本雄彦(21) | 田畑肇也(22) |
| 永富孝典(12) | 永富信義(40) | 佐藤マサ子(37) |
| 吉崎ゆかり(6) | 久保和子(43) | 奥野順子(37) |
| 藤倉嘉郎(42) | 藤倉洋子(16) | 藤倉智子(13) |
| 小川哲(41) | 小川昌子(41) | |
| 岩城美弥子(43) | 中尾富幸(58) | |
| 清水富士子(7) | 山田悦子(45) | |

2 国関係の事故対策本部等の設置状況

1 政 府

名 称 日航機事故対策本部
設置時期 昭和60年8月12日 午後9時00分
設置場所 総 理 府
組 織 本部長 山下運輸大臣

| 日航機事故対策本部の設置について | |
|------------------|---|
| | (昭和60年8月12日) 閣 議 決 定 |
| 1. | 総理府に、運輸大臣を長とする日航機事故対策本部を設ける。 |
| 2. | 本部の構成は、次のとおりとする。 本部長 運輸大臣 副本部長 山崎内閣官房副長官 藤森内閣官房副長官 運輸政務次官 運輸事務次官 本部員 内閣総理大臣官房審議室長 警察庁刑事局長 総務庁長官官房交通安全対策室長 防衛庁防衛局長 厚生省社会局長 運輸省航空局長 消防庁長官 |
| 3. | 本部長は、必要に応じ関係行政機関の職員を本部員に追加することができる。 |
| 4. | 本部の庶務は、運輸省航空局において処理する。 |

2 自治省消防庁

名 称 日航機事故災害対策連絡室
設置時期 昭和60年8月12日 午後8時30分
設置場所 消防庁地域防災課
組 織 室 長 井上消防庁次長

3 運 輸 省

名 称 運輸省日航機事故対策本部
設置時期 昭和60年8月12日事故直後
設置場所 航 空 局
組 織 本部長 松井運輸事務次官

3 国・関係機関の現地視察状況

| | |
|--------|----------------------------|
| 8. 1 3 | 運輸大臣、消防庁長官、運輸省航空局長現地視察 |
| 8. 1 4 | 群馬県議会現地視察及び関係者激励（第1回） |
| 8. 1 4 | 防衛政務次官現地視察 |
| 8. 1 7 | 防衛庁長官現地視察 |
| 8. 2 1 | 警察庁刑事局長、運輸省航空局長現地視察 |
| 8. 2 6 | 消防庁次長、同庁地域防災課長、現地視察及び関係者激励 |
| 8. 2 8 | 運輸省航空局長現地視察 |
| 9. 4 | 群馬県議会関係者現地視察及び関係者激励（第2回） |
| 9. 9 | 同 上 (第3回) |
| 9. 2 5 | 自治大臣（国家公安委員長）現地視察及び関係者激励 |
| 1 1. 4 | 総理大臣現地視察及び協力団体に対する感謝状贈呈 |

4 日航機事故対策主要事項

| 月 日 | 主 要 事 項 | 備 考 |
|--------|--|-----|
| 8. 1 2 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 県日航機遭難事故対策室（室長 消防防災課長）の設置（20：00） <ol style="list-style-type: none"> (1) 隣接県（長野、埼玉県等）との情報交換 (2) 西毛市町村に対する搜索指示 (3) 多野藤岡広域消防本部に対する搜索指示 (4) 消防庁への報告、連絡 (5) テレビ、ラジオからの情報収集 2. 政府に「日航機事故対策本部」を設置（21：00） 3. 群馬県日航123便遭難事故対策本部（本部長 知事）の設置（22：00） | |
| 8. 1 3 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 上野村日本航空機墜落事故対策本部（本部長 村長）を設置（5：00） 2. 第1回本部会議（7：30） 次の措置について決定 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事故の実態を把握すること (2) 救急・救助体制の確立を図ること (3) 遺体の取容場所等を確保すること (4) 関係機関との連絡調整を図ること (5) 県上野現地対策本部を設置すること 3. 本部長（知事）藤岡市へ出向く（9：00） 4. 災害救助法適用について厚生省と協議開始 5. 日航機墜落事故藤岡市対策本部（本部長 市長）の設置（9：00） 6. 消防団員が生存者4人を発見、警察官、自衛隊員と救出にあたる。（10：50ごろ） 7. 群馬県日航123便遭難事故現地対策本部（本部長 総務部次長）の設置（10：50） 8. 運輸大臣、消防庁長官、航空局長現地を視察（13：30） | |

| 月 日 | 主 要 事 項 | 備 考 |
|--------|---|-----------------|
| 8. 1 3 | 9. 副本部長（副知事）ヘリにより墜落現場を視察(14:40) 10. 県本部と県上野現地本部間にホットラインの設置完了 (15:00) 11. 日本消防協会井下常務理事、現地関係者激励(16:00) 12. 現地小型ヘリポート設置 13. 第1回現地対策会議の開催 県、警察、自衛隊、村、消防団の現地責任者により連絡調整会議を開催(20:00から以後連日開催) | |
| 8. 1 4 | 1. 上野村河川敷にヘリポート設置(5:00) 2. 遺体安置所(藤岡市民体育館、武道館、第1小学校)へ県職員、多野藤岡消防本部、藤岡市消防団員を出動 3. 第1回の遺体搬送開始(9:41) 4. 第2回本部会議(以後連日随時開催) 遺体収容状況、死体検案状況、身元確認状況の報告と今後の対応を協議 5. 群馬県議会現地視察及び関係者激励 | ボイス・フライトレコーダー収容 |
| 8. 1 5 | 1. 現地第2ヘリポート建設開始 2. 災害救助法の適用申請について見合わせることを厚生省に回答 | |
| 8. 1 6 | 1. 火葬場関係5市打合せ会の開催 2. 群馬県日航123便遭難事故対策藤岡現地本部(本部長衛生環境部次長)の設置(14:00) 第1回対策会議(以後連日随時開催) 遺体収容、検案、遺族対策等について関係機関との総合調整を協議 3. 県副本部長(副知事)、藤岡市において各関係機関代表と今後の対応について協議 4. 現地第2ヘリポート完成(15:03) | |

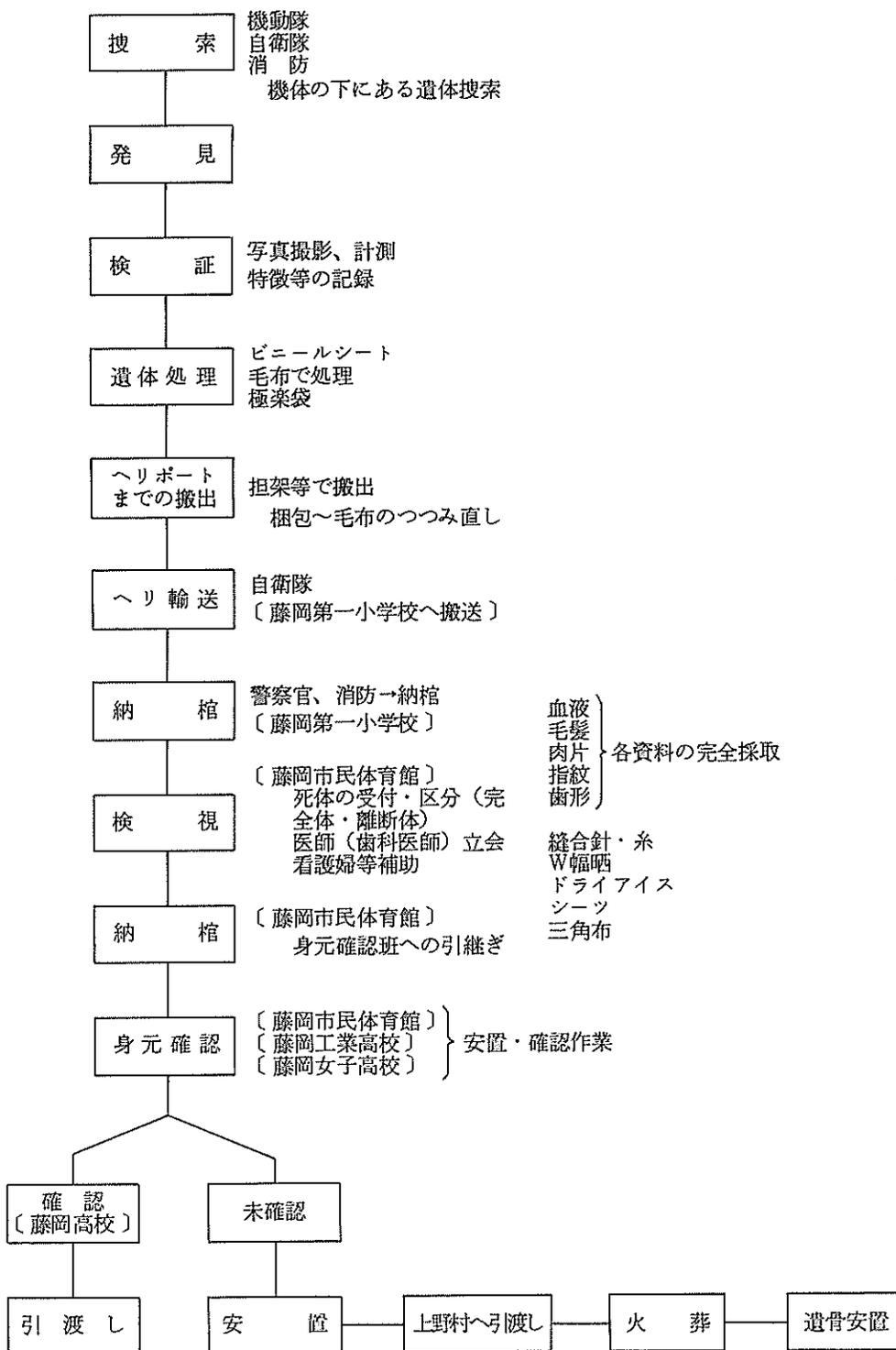
| 月 日 | 主 要 事 項 | 備 考 |
|--------|---|-----|
| 8. 1 6 | 5. 藤岡市市民課に火葬近隣5市相談コーナー開設 | |
| 8. 1 7 | 1. 副本部長（副知事）県上野現本で対応協議のあと墜落現場を視察調査 2. 防衛庁長官現地視察 | |
| 8. 1 8 | 遺族現地飛行用のヘリポート使用を新町自衛隊に要請 | |
| 8. 2 0 | 1. 自衛隊から経費について協定締結の申出 2. 県上野現本において経費負担打合せ会議開催 （出席者 自衛隊、運輸省、県、村） | |
| 8. 2 3 | 1. 知事墜落現場視察、関係者激励 2. 副本部長（副知事）主催による藤岡現地調整会議開催 （出席者 市長、警察本部長、藤岡現地本部長） 次の措置を決定 (1) 第1小ヘリポートは当分の間使用する (2) 学校が始まるまでに終了するように警察で努力する | |
| 8. 2 6 | 1. 消防庁次長、木下地域防災課長が現地視察及び関係者激励 2. 日本消防協会徳田理事長が藤岡地区消防関係者激励 | |
| 8. 2 7 | 遺体捜索活動の体制を大幅に縮小する | |
| 8. 3 0 | 三高校へ安置されている遺体（166柩）を、市民体育館へ搬送（19：05～20：55） | |
| 8. 3 1 | 1. 三高校に配置していた県職員45人引上げる 2. 三高校の清掃、消毒、消臭作業を開始する | |
| 9. 1 | 県上野現地本部の体制を縮小し、消防防災課員2人があたる | |

| 月 日 | 主 要 事 項 | 備 考 |
|----------|--|-----|
| 9. 4 | 1. 県藤岡現地本部を企業会館に移転 2. 県議会関係者現地視察及び関係者激励 | |
| 9. 5 | 火葬近隣5市相談コーナーを17時までで閉鎖 | |
| 9. 9 | 県議会関係者現地視察及び関係者激励 | |
| 9. 12 | 県藤岡現地本部体制を縮小 (6人→4人体制) | |
| 9. 14 | 県上野現地本部体制を縮小(夜間体制解除) | |
| 9. 25 | 古屋自治大臣(国家公安委員長)視察激励(関係機関概況報告) | |
| 9. 26 | 藤岡市において関係機関(県、市、村)連絡会議(合同火葬、合同慰霊式の方針について) | |
| 9. 28 | 未確認遺体の柩の合体(225→130) | |
| 9. 29 | 1. 身元確認場所(未確認遺体)の移動(藤岡市民体育館→県警機動センター) 2. 柩の移動(101柩を機動センターへ、残29柩市民体育館へ安置) | |
| 10. 5 | 1. 上野村主催により身元不明遺体出棺式及び合同火葬(第2回)(市民体育館及び藤岡・高崎・前橋・富岡市) 2. 県上野現地本部解散 3. 県藤岡現地本部解散 | |
| 10.10~12 | 墜落現場の最終捜索、収容活動を実施 | |
| 10. 24 | 機関・団体に対する知事感謝状贈呈式(216団体) (群馬会館) | |
| 11. 4 | 総理大臣、運輸大臣現地視察及び機関、団体に対する感謝状贈呈式(藤岡市民体育館) | |
| 12. 19 | 身元確認作業を終了する(身元未確認遺体2) | |
| 12. 20 | 1. 上野村主催による身元不明遺体出棺式及び合同火葬(第2回)(県スポーツセンター及び前橋・高崎・桐生・藤岡・富岡・伊勢崎市) 2. 県事故対策本部解散(17:00) | |
| 12. 24 | 政府日航機事故対策本部解散 | |

5 日航機事故対策動員状況

| 区 分 | | 日 | | | | | 計 |
|---------|-------|------------------|-----------|---------|--------|--------|--------------|
| | | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | |
| 消 防 職 員 | 現地出動 | 1,064 | 248 | 0 | 0 | 0 | 1,312 |
| | 現地待機 | 1,340 | 80 | 0 | 0 | 0 | 1,420 |
| | 小 計 | 2,404 | 328 | 0 | 0 | 0 | 2,732 |
| 消 防 団 員 | 現地出動 | 1,919 | 50 | 0 | 0 | 0 | 1,969 |
| | 現地待機 | 2,979 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,979 |
| | 自宅待機 | 29,885 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29,885 |
| | 小 計 | 34,783 | 50 | 0 | 0 | 0 | 34,833 |
| 警 察 | 捜索等 | 38,123 | 17,475 | 7,624 | 2,457 | 1,952 | 67,631 |
| 自 衛 隊 | 捜索等 | 47,877 | 3,188 | 910 | 0 | 0 | 51,975 |
| 県 職 員 | 現地出動 | 上 344 藤 2,767 | 55 220 | 2 24 | 0 0 | 0 0 | 401 3,011 |
| | 情報収集等 | 1,075 | 453 | 208 | 150 | 102 | 1,988 |
| | 小 計 | 4,186 | 728 | 234 | 150 | 102 | 5,400 |
| 市町村職員 | 情報収集等 | 5,589 | 742 | 21 | 0 | 0 | 6,352 |
| 日 赤 | 遺体検案等 | 966 | 83 | 0 | 0 | 0 | 1,049 |
| 医師会等 | 遺体検案等 | 1,907 | 310 | 100 | 52 | 82 | 2,451 |
| 合 計 | | 135,835 | 22,904 | 8,889 | 2,659 | 2,136 | 172,423 |

6 遺体の搜索・収容から遺族への引き渡し経過



7 遺体収容、身元確認、引渡、火葬状況

| 区 分 日 | 収 容 総 数 | | | | 身 元 確 認 | | 引 渡 数 | |
|--------------|---------|-----|---------|-------|---------|-----|-------|-----|
| | 完 全 遺 体 | | 部 分 遺 体 | | 当 日 数 | 累 計 | 当 日 数 | 累 計 |
| | 当 日 数 | 累 計 | 当 日 数 | 累 計 | | | | |
| 8月 14 (水) | 111 | 111 | 163 | 163 | 71 | 71 | 31 | 31 |
| 15 (木) | 156 | 267 | 203 | 366 | 68 | 139 | 47 | 78 |
| 16 (金) | 138 | 405 | 115 | 481 | 84 | 223 | 82 | 160 |
| 17 (土) | 59 | 464 | 101 | 582 | 83 | 306 | 71 | 231 |
| 18 (日) | 17 | 481 | 83 | 665 | 53 | 359 | 85 | 316 |
| 19 (月) | 7 | 488 | 70 | 735 | 36 | 395 | 40 | 356 |
| 20 (火) | 1 | 489 | 46 | 781 | 20 | 415 | 33 | 389 |
| 21 (水) | 1 | 490 | 65 | 846 | 26 | 441 | 21 | 410 |
| 22 (木) | | 490 | 39 | 885 | 16 | 457 | 27 | 437 |
| 23 (金) | 1 | 491 | 38 | 923 | 10 | 467 | 10 | 447 |
| 24 (土) | 1 | 492 | 80 | 1,003 | 8 | 475 | 14 | 461 |
| 25 (日) | | 492 | 48 | 1,051 | 6 | 481 | 7 | 468 |
| 26 (月) | | 492 | 44 | 1,095 | 5 | 486 | 10 | 478 |
| 27 (火) | | 492 | 33 | 1,128 | 2 | 488 | 6 | 484 |
| 28 (水) | | 492 | 14 | 1,142 | 2 | 490 | 1 | 485 |
| 29 (木) | | 492 | 12 | 1,154 | 4 | 494 | 2 | 487 |
| 30 (金) | | 492 | | 1,154 | 2 | 496 | 5 | 492 |
| 31 (土) | | 492 | 16 | 1,170 | 2 | 498 | 6 | 498 |
| 9月 1 (日) | | 492 | | 1,170 | | 498 | | 498 |
| 2 (月) | | 492 | 22 | 1,192 | 3 | 501 | 2 | 500 |
| 3 (火) | | 492 | 2 | 1,194 | 2 | 503 | 3 | 503 |
| 4 (水) | | 492 | | 1,194 | 1 | 504 | 1 | 504 |
| 5 (木) | | 492 | | 1,194 | | 504 | | 504 |
| 6 (金) | | 492 | 2 | 1,196 | | 504 | | 504 |

| 火 葬 状 況 数 | | | | | | | 計 | |
|-----------|-----|-----|-----|-------|-----------|-------|-----|--|
| 藤 岡 | 高 崎 | 富 岡 | 前 橋 | 伊 勢 崎 | 美 里 (埼 玉) | 当 日 数 | 累 計 | |
| | | | | | | | | |
| 2 | 7 | | | | | 9 | 9 | |
| 3 | 41 | | | | 5 | 49 | 58 | |
| 4 | 13 | 2 | 1 | | | 20 | 78 | |
| 4 | 30 | 2 | 11 | 2 | 8 | 57 | 135 | |
| 4 | 24 | | 2 | | | 30 | 165 | |
| 4 | 15 | | 2 | | 1 | 22 | 187 | |
| 5 | 11 | | 1 | | 1 | 18 | 205 | |
| 4 | 13 | | 2 | | | 19 | 224 | |
| 3 | 7 | | | | | 10 | 234 | |
| 4 | 7 | | | | | 11 | 245 | |
| 5 | 7 | | | | | 12 | 257 | |
| 5 | 5 | | 1 | 1 | | 12 | 269 | |
| 4 | 3 | 1 | | 1 | | 9 | 278 | |
| 4 | 3 | 1 | | | | 8 | 286 | |
| 4 | | | | | 4 | 8 | 294 | |
| 4 | 4 | 1 | 1 | | | 10 | 304 | |
| 5 | 3 | | 1 | 1 | | 10 | 314 | |
| 2 | 1 | | | | | 3 | 317 | |
| 2 | 1 | 1 | | | | 4 | 321 | |
| 1 | 2 | | | | | 3 | 324 | |
| | 2 | | | | | 2 | 326 | |
| 1 | 1 | | | | | 2 | 328 | |
| 1 | | | | | | 1 | 329 | |

| 区分 日 | 収容総数 | | | | 身元確認 | | 引渡数 | |
|--------------|------|-----|------|-------|------|-----|-----|-----|
| | 完全遺体 | | 部分遺体 | | 当日数 | 累計 | 当日数 | 累計 |
| | 当日数 | 累計 | 当日数 | 累計 | | | | |
| 9月 7 (土) | | 492 | | 1,196 | 1 | 505 | | 504 |
| 8 (日) | | 492 | | 1,196 | | 505 | | 504 |
| 9 (月) | | 492 | 1 | 1,197 | 1 | 506 | 1 | 505 |
| 10 (火) | | 492 | | 1,197 | 2 | 508 | 3 | 508 |
| 11 (水) | | 492 | | 1,197 | | 508 | | 508 |
| 12 (木) | | 492 | 1 | 1,198 | | 508 | | 508 |
| 13 (金) | | 492 | | 1,198 | 2 | 510 | 2 | 510 |
| 14 (土) | | 492 | | 1,198 | | 510 | | 510 |
| 15 (日) | | 492 | | 1,198 | | 510 | | 510 |
| 16 (月) | | 492 | | 1,198 | | 510 | | 510 |
| 17 (火) | | 492 | | 1,198 | 1 | 511 | 1 | 511 |
| 18 (水) | | 492 | | 1,198 | 1 | 512 | | 511 |
| 19 (木) | | 492 | | 1,198 | | 512 | 1 | 512 |
| 20 (金) | | 492 | 1 | 1,199 | | 512 | | 512 |
| 21 (土) | | 492 | | 1,199 | 1 | 513 | 1 | 513 |
| 22 (日) | | 492 | | 1,199 | | 513 | | 513 |
| 23 (月) | | 492 | 1 | 1,200 | | 513 | | 513 |
| 24 (火) | | 492 | | 1,200 | | 513 | | 513 |
| 25 (水) | | 492 | | 1,200 | 1 | 514 | 1 | 514 |
| 26 (木) | | 492 | 3 | 1,203 | | 514 | | 514 |
| 27 (金) | | 492 | | 1,203 | | 514 | | 514 |
| 28 (土) | | 492 | | 1,203 | | 514 | | 514 |
| 29 (日) | | 492 | | 1,203 | 1 | 515 | 1 | 515 |
| 30 (月) | | 492 | 2 | 1,205 | | 515 | | 515 |
| 10月 1 (火) | | 492 | 1 | 1,206 | | 515 | | 515 |

| 火 葬 状 況 数 | | | | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|-------|-------------|-------|-----|
| 藤 岡 | 高 崎 | 富 岡 | 前 橋 | 伊 勢 崎 | 美 里 (埼玉) | 計 | |
| | | | | | | 当 日 数 | 累 計 |
| 1 | | | 1 | | | 2 | 331 |
| | | | | | | | 331 |
| | | | | | | | 331 |
| | | | | | | | 331 |
| 3 | 5 | | | | | 8 | 339 |
| | | | | | | | 339 |
| | | | | | | | 339 |
| 2 | | | | | | 2 | 341 |
| | | | | | | | 341 |
| | | | | | | | 341 |
| | | | | | | | 341 |
| 2 | | | | | | 2 | 343 |
| 1 | | | | | | 1 | 344 |
| 3 | 1 | | | | | 4 | 348 |
| | | | | | | | 348 |
| 1 | | | | | | 1 | 349 |
| 3 | | | | | | 3 | 352 |
| | 1 | | | | | 1 | 353 |
| 2 | | | | | | 2 | 355 |
| 3 | | | | | 岡部 (埼玉)1 | 4 | 359 |
| | | | | | | | 359 |
| | | | | | | | 359 |
| | | | | | | | 359 |
| | 1 | | | | | 1 | 360 |
| | | | | | | | 360 |

| 区分 日 | 収容総数 | | | | 身元確認 | | 引渡数 | |
|---------------|------|-----|------|-------|------|-----|-----|-----|
| | 完全遺体 | | 部分遺体 | | 当日数 | 累計 | 当日数 | 累計 |
| | 当日数 | 累計 | 当日数 | 累計 | | | | |
| 10月 2 (木) | | 492 | | 1,206 | | 515 | | 515 |
| 3 (木) | | 492 | | 1,206 | | 515 | | 515 |
| 4 (金) | | 492 | | 1,206 | | 515 | | 515 |
| 5 (土) | | 492 | 1 | 1,207 | | 515 | | 515 |
| 6 (日) | | 492 | | 1,207 | | 515 | | 515 |
| 7 (月) | | 492 | | 1,207 | | 515 | | 515 |
| 8 (火) | | 492 | | 1,207 | | 515 | | 515 |
| 9 (水) | | 492 | | 1,207 | | 515 | | 515 |
| 10 (木) | | 492 | | 1,207 | | 515 | | 515 |
| 11 (金) | | 492 | | 1,207 | 1 | 516 | | 515 |
| 12 (土) | | 492 | | 1,207 | | 516 | | 515 |
| 13 (日) | | 492 | | 1,207 | | 516 | | 515 |
| 14 (月) | | 492 | | 1,207 | | 516 | 1 | 516 |
| 15 (火) | | 492 | | 1,207 | | 516 | | 516 |
| 16 (水) | | 492 | | 1,207 | | 516 | | 516 |
| 17 (木) | | 492 | | 1,207 | | 516 | | 516 |
| 20 (日) | | 492 | | 1,207 | 1 | 517 | 1 | 517 |
| 21 (月) | | 492 | 2 | 1,209 | | 517 | | 517 |
| 22 (火) | | 492 | | 1,209 | | 517 | | 517 |
| 28 (日) | | 492 | | 1,209 | 1 | 518 | 1 | 518 |
| 29 (火) | | 492 | | 1,209 | | 518 | | 518 |
| 11月 4 (月) | | 492 | 1 | 1,210 | | 518 | | 518 |
| 12月 20 (金) | | 492 | | 1,210 | | 518 | | 518 |

8 公共施設使用状況

(上野現地対策関係)

| 区分 | | 日 | 8/13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 9/1 | 9月 | 10月 | |
|----------|---|----------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|---------|
| 宿 | 野 | 役場会議室 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| | | 中学体育館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| | | 勝山公民館 | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | 新羽公民館 | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | 中 | 中学体育館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | 中里村公民館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ 3日 |
| | | 中里村 長寿園 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | | 神ヶ原 集会所 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | 舎 | 基幹集落センター | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | 小・中学体育館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 武 道 館 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 生活改善センター | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 等 | 万 | 万場高校体育館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 町 | " 武道館 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 鬼 | 中学体育館 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| 石 | | 小学体育館 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |

(上野現地対策関係)

| 区分 | | 日 | 8/13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 9月 | 10月 | |
|-------------------------|-----|----------|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|--|
| 宿自 舎衛 野 隊 県 | 上野村 | 上野村役場 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 上野村小学校 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | 旧上野村西小学校 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 長 | | 北相木村小学校 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| | | | “ 公民館 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | | 南相木村公民館 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | “ 小学校 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | “ 中島公民館 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 野 | | “ 加佐公民館 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 川上村公民館 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | | “ 小学校 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| | 隊 | | “ 体育館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 小海村小学校 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |

(藤岡現地対策関係)

| 区分 | 日 | 8/13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 9/1 | 2 | 3 | 9月 | | | | | |
|----------------------------|--------------------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|---|----|---------|---------|---|---|---------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 遺 体 安 置 所 等 | 藤岡市民体育館 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ 29 | | | | |
| | 藤岡武道館 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ 29 | | | |
| | 藤岡高校 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| | 藤岡工業高校 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| | 藤岡女子高校 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| | 藤岡第1小学校 (ヘリポート) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| | 烏川サッカー場 (ヘリポート) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ 25 |
| | 藤岡市公民館 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ 29 |
| 遺 族 控 所 | 藤岡市立 藤岡第二小学校 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | " 神流小学校 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | " 東中学校 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | " 北中学校 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | " 小野中学校 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |

9 国及び県の感謝状贈呈状況

1 内閣総理大臣感謝状

(地方公共団体関係)

上野村
藤岡市
群馬県

(捜索救難関係)

群馬県警察本部
関東管区警察局群馬県通信部
陸上自衛隊第12師団
多野藤岡広域市町村圏振興整備組合
消防本部
上野村消防団
藤岡市消防団
前橋営林局
前橋営林局高崎営林署
警視庁
埼玉県警察本部
神奈川県警察本部
新潟県警察本部
山梨県警察本部
長野県警察本部
静岡県警察本部
陸上自衛隊第1ヘリコプター団
陸上自衛隊第1空挺団
陸上自衛隊東部方面通信群
陸上自衛隊東部方面航空隊
海上自衛隊「まつゆき」ぎ装員一同

航空自衛隊中部航空方面隊・入間基地所在部隊等災害派遣指揮下部隊
航空自衛隊航空救難団
第三管区海上保安本部

(医療関係)

多野総合病院
国立高崎病院
群馬県医師会
藤岡多野医師会
群馬県歯科医師会
藤岡多野歯科医師会
日本赤十字社群馬県支部
群馬県警察医会
日本看護協会群馬県支部
日本法医学会

(施設提供関係)

群馬県立藤岡高等学校
群馬県立藤岡女子高等学校
群馬県立藤岡工業高等学校
藤岡市立藤岡第一小学校
藤岡市市民体育館

(民間協力者関係)

上野村狹友会
明るい社会づくりの会藤岡地区
桑の実会
多野藤岡ライオネスクラブ
多野藤岡ライオンズクラブ
藤岡多野更生保護婦人会
藤岡市母子保護連盟
藤岡市民生児童委員協議会婦人部
藤岡市連合婦人会
藤の根会

2 日航機事故対策本部長（運輸大臣）感謝状

（地方公共団体関係）

中里村
前橋市
高崎市
伊勢崎市
富岡市
新町
鬼石町
吉井町
万場町
下仁田町
長野県
佐久市
臼田町
佐久町
小海町
川上村
南牧村
南相木村
北相木村
八千穂村

（捜索救難関係）

陸上自衛隊相馬原駐屯地業務隊
陸上自衛隊新町駐屯地業務隊
新町消防団
鬼石町消防団
吉井町消防団
万場町消防団
中里村消防団
高崎市等広域消防組合消防本部
陸上自衛隊需品補給処及び支援諸部隊
陸上自衛隊化学学校
航空自衛隊飛行教育集团・同災害派遣指揮下部隊
航空自衛隊術科教育本部・第1術科学校

（捜索救難関係）

航空自衛隊第4術科学校・熊谷基地
所在部隊
航空自衛隊偵察航空隊
川上村消防団
南相木村消防団
北相木村消防団
南相木村栗生子備消防団
佐久地域広域行政事務組合消防本部
秩父広域市町村圏組合消防本部
東京消防庁
長野営林局
長野営林局臼田営林署
海上保安庁水路部

（医療関係）

前橋赤十字病院
原町赤十字病院
群馬大学医学部法医学教室
群馬県医師会女医会
日本赤十字社
日本赤十字社茨城県支部
日本赤十字社栃木県支部
日本赤十字社埼玉県支部
日本赤十字社千葉県支部
日本赤十字社東京都支部
日本赤十字社神奈川県支部
日本赤十字社山梨県支部
日本赤十字社長野県支部
日本赤十字社静岡県支部
東京歯科大学法歯学教室
日本大学歯学部法医学教室

（施設提供関係）

上野村立上野小学校
上野村立上野中学校
上野村教育委員会
鬼石町立鬼石小学校

(施設提供関係)

鬼石町立鬼石中学校
鬼石町教育委員会
群馬県立万場高等学校
群馬県教育委員会
中里村立中里中学校
中里村教育委員会
藤岡市立小野小学校
藤岡市立神流小学校
藤岡市立平井小学校
藤岡市立藤岡第二小学校
藤岡市立美九里西小学校
藤岡市立美九里東小学校
藤岡市立美土里小学校
藤岡市立小野中学校
藤岡市立北中学校
藤岡市立西中学校
藤岡市立東中学校
藤岡市教育委員会
万場町立万場小学校
万場町立万場中学校
万場町教育委員会
藤岡市一丁目公会堂
高崎鉄道管理局高崎駅
日本電信電話株式会社群馬支社
東京電力株式会社群馬支店
藤岡市偕同苑
前橋市斎場
高崎市斎場
伊勢崎市火葬場
富岡市斎場
こだま聖苑
光徳寺
川上村教育委員会
北相木村教育委員会
小海町教育委員会
長野県教育委員会

(施設提供関係)

南相木村教育委員会
秋山林野保議組合
日本電信電話株式会社
朝日航洋株式会社
株式会社関電工
全国霊柩自動車協会
帝都典礼株式会社

(民間協力者関係)

明るい社会づくりの会高崎地区
明るい社会づくりの会伊勢崎地区
明るい社会づくりの会榛名地区
明るい社会づくりの会新町地区
明るい社会づくりの会鬼石地区
明るい社会づくりの会吉井地区
明るい社会づくりの会富岡甘楽地区
明るい社会づくりの会安中碓氷地区
明るい社会づくりの会玉村地区
上野村商工会
上野村森林組合
上野村第一区
上野村第二区
上野村第三区
上野村第四区
上野村第五区
上野村第六区
上野村第七区
上野村第八区
上野村第九区
上野村第十区
上野村第十一区
上野村第十二区
上野村第十三区
上野村農業協同組合
奥多野農業協同組合
かたりべの会

(民間協力者関係)

ガールスカウト群馬県第63団
ガールスカウト日本連盟群馬県支部
黒百合会
群馬県医薬品卸協同組合
群馬県神社庁
群馬県青年赤十字奉仕団
群馬県仏教連合会
群馬県薬剤師会
群馬県立藤岡工業高等学校JRC
群馬県立藤岡女子高等学校JRC
群馬藤岡農業協同組合
国際ソロプチミスト前橋
三本木村づくり
手話サークルのぎくの会
高崎和田ライオネスクラブ
多野林業協同組合
富岡ライオネスクラブ
藤岡交通安全協会奥多野支部
藤岡交通安全協会藤岡支部
藤岡市小野農業協同組合
藤岡市交通指導員
藤岡市青年経営者協議会
藤岡市農業協同組合青年部
藤岡市婦人防火クラブ
藤岡市宮本町生活学校
藤岡商工会議所婦人部
藤岡市立小野小学校PTA
藤岡市立小野中学校PTA
藤岡市立神流小学校PTA
藤岡市立北中学校PTA
藤岡市立東中学校PTA
むつぼしの会
吉井町婦人会
倫理研究所藤岡実践部
梓山婦人会
小海町日赤奉仕団

(民間協力者関係)

小海町連合婦人会

3 群馬県知事感謝状

地方公共団体の部

| | | |
|-----------------------------|---|---|
| 藤 | 岡 | 市 |
| 上 | 野 | 村 |
| 新 | | 町 |
| 鬼 | 石 | 町 |
| 吉 | 井 | 町 |
| 万 | 場 | 町 |
| 中 | 里 | 村 |
| 前 | 橋 | 市 |
| 高 | 崎 | 市 |
| 伊 | 勢 | 崎 |
| 富 | 岡 | 市 |
| 下 | 仁 | 田 |
| 多野藤岡広域市町村圏 振興整備組合 | | |
| 多野藤岡広域市町村圏 振興整備組合消防本部 | | |
| 多野藤岡広域市町村圏 振興整備組合上野消防出張所 | | |
| 高崎市等広域消防組合消防本部 | | |
| 群馬県教育委員会 | | |
| 藤岡市教育委員会 | | |
| 鬼石町教育委員会 | | |
| 万場町教育委員会 | | |
| 中里村教育委員会 | | |
| 上野村教育委員会 | | |

警察関係の部

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 群 | 馬 | 県 | 警 | 察 |
| 警 | | 視 | | 庁 |
| 埼 | 玉 | 県 | 警 | 察 |
| 長 | 野 | 県 | 警 | 察 |
| 神 | 奈 | 川 | 県 | 警 |
| 新 | 潟 | 県 | 警 | 察 |
| 静 | 岡 | 県 | 警 | 察 |
| 山 | 梨 | 県 | 警 | 察 |

警察関係の部

| |
|---------------|
| 関東管区警察局群馬県通信部 |
| 北海道警察本部 |
| 青森県警察本部 |
| 秋田県警察本部 |
| 福島県警察本部 |
| 岐阜県警察本部 |
| 愛知県警察本部 |
| 大阪府警察本部 |
| 広島県警察本部 |
| 福岡県警察本部 |

自衛隊関係の部

| |
|-----------------------|
| 陸上自衛隊第12師団 |
| 陸上自衛隊第1ヘリコプター団 |
| 陸上自衛隊第1空挺団 |
| 陸上自衛隊東部方面航空隊 |
| 陸上自衛隊東部方面通信群 |
| 陸上自衛隊相馬原駐屯地業務隊 |
| 陸上自衛隊新町駐屯地業務隊 |
| 陸上自衛隊需品補給処 |
| 陸上自衛隊化学学校 |
| 航空自衛隊中部航空方面隊 |
| 航空自衛隊飛行教育集団 |
| 航空自衛隊中部航空警戒管制団 |
| 航空自衛隊熊谷基地 |
| 航空自衛隊保安管制気象団飛行 点検隊 |

消防団の部

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 上 | 野 | 村 | 消 | 防 | 団 |
| 藤 | 岡 | 市 | 消 | 防 | 団 |
| 新 | | 町 | 消 | 防 | 団 |
| 鬼 | 石 | 町 | 消 | 防 | 団 |
| 吉 | 井 | 町 | 消 | 防 | 団 |
| 万 | 場 | 町 | 消 | 防 | 団 |
| 中 | 里 | 村 | 消 | 防 | 団 |

公的協力機関の部

多野総合病院
前橋営林局
前橋営林局高崎営林署
国立高崎病院
東京消防庁航空隊
群馬大学医学部法医学教室
前橋市斎場
高崎市斎場
伊勢崎市火葬場
藤岡市偕同苑
富岡市斎場
こだま聖苑
第1管区海上保安本部
第2管区海上保安本部
第3管区海上保安本部
第4管区海上保安本部
第5管区海上保安本部
第9管区海上保安本部

施設提供機関の部

群馬県立藤岡高等学校
群馬県立藤岡女子高等学校
群馬県立藤岡工業高等学校
群馬県立万場高等学校
藤岡市立藤岡第一小学校
藤岡市立藤岡第二小学校
藤岡市立神流小学校
藤岡市立小野小学校
藤岡市立美土里小学校
藤岡市立美九里東小学校
藤岡市立美九里西小学校
藤岡市立平井小学校
藤岡市立西中学校
藤岡市立東中学校
藤岡市立北中学校
藤岡市立小野中学校

施設提供関係の部

鬼石町立鬼石小学校
鬼石町立鬼石中学校
万場町立万場小学校
万場町立万場中学校
中里村立中里中学校
上野村立上野小学校
上野村立上野中学校
藤岡市市民体育館
藤岡市武道館
藤岡市一丁目公会堂
神ヶ原公会堂

民間協力団体の部

群馬県医師会
群馬県歯科医師会
藤岡多野医師会
藤岡多野歯科医師会
群馬県警察医会
日本赤十字社
日本赤十字社茨城県支部
日本赤十字社栃木県支部
日本赤十字社埼玉県支部
日本赤十字社千葉県支部
日本赤十字社東京都支部
日本赤十字社神奈川県支部
日本赤十字社群馬県支部
日本赤十字社医療センター
日本赤十字社静岡県支部
水戸赤十字病院
猿島赤十字病院
芳賀赤十字病院
大田原赤十字病院
足利赤十字病院
大宮赤十字病院
小川赤十字病院

民間協力団体の部

深谷赤十字病院
 成田赤十字病院
 千葉県赤十字血液センター
 武蔵野赤十字病院
 新宿赤十字産院
 葛飾赤十字産院
 大森赤十字病院
 横浜赤十字病院
 秦野赤十字病院
 津久井赤十字病院
 静岡赤十字病院
 前橋赤十字病院
 原町赤十字病院
 日本看護協会群馬県支部
 上野村猟友会
 上野村森林組合
 上野村農業協同組合
 上野村商工会
 多野林業協同組合
 群馬県仏教連合会
 光徳寺
 群馬県神社庁
 東京電力(株)群馬支店藤岡営業所
 日本電信電話(株)群馬支社
 国際興業(株)前橋営業所
 朝日航洋株式会社
 アジア航測株式会社
 新日本ヘリコプター株式会社

民間奉仕団体の部

藤岡市連合婦人会
 明るい社会づくりの会高崎地区
 明るい社会づくりの会伊勢崎地区
 明るい社会づくりの会藤岡地区
 明るい社会づくりの会富岡甘楽地区
 明るい社会づくりの会安中碓氷地区

民間奉仕団体の部

明るい社会づくりの会榛名地区
 明るい社会づくりの会新町地区
 明るい社会づくりの会鬼石地区
 明るい社会づくりの会吉井地区
 明るい社会づくりの会玉村地区
 上野村第1区
 上野村第2区
 上野村第3区
 上野村第4区
 上野村第5区
 上野村第6区
 上野村第7区
 上野村第8区
 上野村第9区
 上野村第10区
 上野村第11区
 上野村第12区
 上野村第13区
 かたりべの会
 ガールスカウト群馬県第63団
 ガールスカウト日本連盟群馬県支部
 黒百合会
 桑の実会
 群馬県医師会女医会
 群馬県青年赤十字奉仕団
 群馬県立藤岡女子高等学校JRC
 群馬県立藤岡工業高等学校JRC
 国際ソロブチミスト前橋
 手話サークル野ぎくの会
 高崎和田ライオネスクラブ
 多野藤岡ライオネスクラブ
 多野藤岡ライオンズクラブ
 富岡ライオンズクラブ
 藤岡交通安全協会奥多野支部
 藤岡市立神流小学校PTA
 藤岡市立小野小学校PTA

民間奉仕団体の部

藤岡市立東中学校 P T A
藤岡市立北中学校 P T A
藤岡市立小野中学校 P T A
藤岡市三本木村づくり
藤岡市農業協同組合青年部
藤岡市婦人防火クラブ
藤岡市母子保護連盟
藤岡市宮本町生活学校
藤岡市民生児童委員協議会婦人部
藤岡商工会議所婦人部
藤岡青年経営者協議会
藤岡多野更生保護婦人会
藤岡交通安全協会藤岡支部
藤岡市交通指導員
藤 の 根 会
むつほしの会
吉井町婦人会
倫理研究所藤岡実践部

長野・群馬県境の山中

乗客ら524人絶望か

世界最大の航空機惨事

十二日午後六時半すぎ、羽田から大阪に向かった日本航空123便ジャンボ機（高浜雅己機長、乗客乗員五百二十四人）が、機体の異状を羽田空港の管制塔に連絡した後、長野、群馬、埼玉三県境の山岳地帯に墜落、炎上した。長野県警によると墜落現場は長野県南佐久郡北相木村とみられており、同県警などが救援活動を始めているが、現場は標高千五百メートルに及ぶ山中で難航している。同機はお盆休みの帰省客などで満席で、一機で乗員乗客五百二十四人が遭難したのは、日本ではもちろん世界の航空史上でも最大の事故となった。乗客名簿によると、高崎市貝沢町、会社員、竹下元章さん（四八）が乗っていたとみられる。竹下さんは、本県代表として甲子園に出場している農大二高野球部員、政宏選手（同校二年）の父親。今月七日から母親、かゆ子さん（四四）とともに甲子園に応援にいき、十二日朝にひとり自宅に帰り同日、再び甲子園の応援に向かう予定だった。現在は指月電機に勤務しているが、三十一年から三十七年までプロ野球の広島カープで捕手をしてきた経歴もある。

遺体の山の中で15時間

生存者救出の「片腕が動いている」 消防団員証言

日航ジャンボ機墜落事故で、奇跡的に生還した母子の乗客ら四人は、まだ搬出されていない約三百人の遺体が折り重なるせい惨な現場で、遺体と遺体のわずかな空間から助け出されたことが十四日午後、救出に当たった地元消防団員の証言で分かった。生存者四人は、遺体の山の中で、意識がはっきりしながらも、自力で抜け出すことができず、不安なまま夜を過ごし、発見されるまでの約十五時間を耐え抜いた。

約三百人の遺体があるスゲノ沢の谷底に一番乗りしたのは、上野村消防団第五分団長

黒沢武士さん(8)ら高分団員九人と、機動隊員約十人の計約二十人。

黒沢さんの話によると、黒沢さんらは入山してから約二時間半後の十三日午前十時すぎ、墜落現場北斜面のスゲノ沢に到着した。そこでわずかに幅三十メートルの谷底前方に多数の遺体の山を見つけた。

途中、所々に手足や肉片が散乱し悪臭の漂う惨状に黒沢さんらも思わず目をそむけた。突然「手が動いているぞ」との機動隊員の大声。黒沢さんは一瞬「あり得ない。錯覚ではないか」と思ったという。しかし、よく見ると遺体の

山の中から片腕が出て、それが確かに動いている。「夢中でどちらの手かは分かりませんでした。助けを求めてわれわれを呼んだのだと思います」

黒沢さんらは、周囲にあった手ごころな木の枝を切り取り、それをゴコにして遺体の山をかき分け、生存者を助け出した。

最初に助け出したのは女性。眼はホロボロになっていて意識はある。家族四人で乗っています」とだけ弱々しくつぶやいた。名前を聞くと「ヨシザキです」と答えたきり目を閉じた。吉崎博子さん(3)だった。

吉崎さんを救出すると、ほとんどの同じ場所で女の子が動いているのが分かった。吉崎さんと同じように救出。女の子は柄もののワンピースにサドル服き。衣服はほとんど乱れておらず、意識もはっきりしている。顔面はそう白で、黒沢さんを見ながら目を閉じたり閉じたりした。

消防団の仲間が木の枝を切り、残がいの中から見つけた飛行機の毛布を利用して担架を作った。黒沢さんは女の子を抱いて担架に運び、途中、名前を尋ねた。「ヨシザキ・ミキコです」と、驚くほどしっかりと答え、その後はずうや

かりと答え、その後はずうや

く安心したのか目を閉じた。吉崎さんの長女美紀子ちゃん(6)は、アゴと左ヒザが変色するほどの打撲の跡があったが、他に外傷はなかった。

黒沢さんは「しつかりしろ、しつかりしろ」と何度も励ました。美紀子ちゃんはその都度、目はつぶったままうなずいて、黒沢さんにこたえた。

午前十一時、黒沢さんらは美紀子ちゃんを担架で尾根の頂上に運び上げた。しかし、その後、約二時間近くの間、自衛隊のヘリが到着せず「早く連れていってほしい」と、死んでしまつたのでは」と気を

もんだ。午前十一時前、同じ場所で残る二人も救出され、午後一時すぎ、全員が自衛隊のヘリで病院に収容された。

確認作業、長期化へ

藤岡 工高 判明皆無に家族がつくり

藤岡市で続けられている日航機事故遺体の身元確認作業は、十六日、これまでの藤岡市民体育館のほか、損傷の激しい「バラバラ遺体」の置かれた藤岡工高でも行われた。

ここでの身元判明ははかどらず、相をのぞいては思わず顔をそむける肉親のやり切れぬ表情が惨劇の様子を浮かび上がらせていた。墜落現場での遺体収容作業のピッチもダウン。重苦しい空気のなか、家族待機場所のテレビを通じて甲子園から流れる農大二高の校

歌が、父親が乗客だった甲子園球児、竹下君を励ますように響きわたった。御旗麻山の避難現場から検死・遺体確認場所の市民体育館に運び込まれる遺体は、事故発生からまる四日間経っているため腐敗が進んで損傷がひどく、この日午後三時までの身元判明はわずか十三体というスローペース。胸の膨張カルテをもとに検視作業にあたる県警察医会の大岡勉医師は「一体だか三体かわからないものも多く、慎重にやらないと得ない」と説明、確認作業は長期化してつづ。

同日も約千七百人が待機し、遺体発見の知らせを待ったが身元確認の遅れと疲労から待機する家族らのいら立ちが溢るばかりだった。

遺体収容作業、数体一緒に変更

遺体収容作業は、県警機動

隊員四百人が新たに加わり、警察関係者二千八百人、自衛隊員九百人の計三千七百人、ヘリ二十九機が動員され同日午前七時半から行われた。遺体は損傷が激しく識別できないものもあり、手、足、胴体と何体かを一緒に包む方法に変わった。このため、十五日まで「収容遺体何体」と発表されたものが、「何包み」と発表されるようになり、百四十三包みが搬送された。

米国の調査団も

また、この日は、米連邦運輸安全委員会、連邦航空局、ボーイング社からなる米政府調査団が連輸省事故調査委員とともに現場を視察。問題の胴体後部などを中心に見て回った。なぎ倒され、焼け焦げた樹木の間に散乱する機体の破片、遺体など悲惨な状況に顔をしかめるシーンも。

突貫作業で第二ヘリポート完成

一方、第二ヘリポート建設作業は十五日朝から陸上自衛隊十二旅団大隊の突貫作業が続けられていたが、十六日正午完成した。

藤岡工業高校体育館には市民体育館で身元が確認されなかった遺体ばかりが集められ、家族がそれぞれ二人ずつ対面による確認を行ったが身元の判明は皆無に近く、家族らはがっかり。

同市内の小、中校五カ所に設けられた家族控え所にはこ

夜間搜索無理だった

衆院委 日航機墜落で防衛庁

日本航空の墜落事故が二十日
の衆院運輸委員会委員から
取り上げられ、参考人として出
席した日航の高木義根社長は
「きわめて多数の方々の真い命
をなくし、まことに申し訳な
い」と述べた。また、山下運輸
相は「二度と起こらぬよう万全
を期したい」と答えた。

回廊では、犠牲者のめい柩を
祈るため一分間の黙とう。高木
社長が賛辞を求め、「ご遺族や
ご被災者のお気持ちを考えると
断腸の思い。三年前の羽田沖事
故に続き、再びこういう事故を
起こし、おわび申しあげる次第
です」と頭を下げた。

尾玉宗男氏（社会）は、自衛
隊の初期搜索態勢が遅れ、事故
直後には何人もいたとみられる
生存者を救いきれなかったのだ
ではないか、とたじた。

隊の初期搜索態勢が遅れ、事故
直後には何人もいたとみられる
生存者を救いきれなかったのだ
ではないか、とたじた。

防衛庁の大森運用課長は「現
在の位置測定方式では、夜間に
現場を確定しようとしても、フ
ラス・マイナス三十五度の誤差
ができる。照明弾を使うことも
考えたが、山火事のおそれがあ
るので見合わせた。ヘリコプタ
ーにサーチライトはあるが、視

日航機搜索経
費など万全を
首相指示

首相指示

中曽根首相は二十日午前の
閣議で、日航機の墜落事故に
ついて「自衛隊、警察、地元
消防団、関係市町村には、
救助、捜索にみなみなならぬ
ご努力をいたさき、心から、
お礼を申し上げます」と謝意を
表明。経費、処遇の面につい
ては関係庁庁で、十分、連絡
を取り合って万全を期して欲
しい」と各関係に指示した。

陸自へりに暗視装置

夜間救出へ導入決める

群馬山中で起きた日航ジャ
ンボ機墜落事故で、自衛隊の
夜間行動能力の「盲点」が明
らかになったが、防衛庁は二
十四日、陸上自衛隊のヘリコ
プター部隊に、操縦専用の暗
視装置を装備する方針を決め
た。星明かりなどのかすかな
光を電子的に増幅、暗夜でも
四百メートル先まで識別できる最新

装置で、地上部隊の一部には、
すでに取り入れられているも
のの、航空部隊への導入は初
めて。日航機事故では、墜落
した直後は、救出された四人
以外にも生存者がいたとみら
れることから、「もっと早く
救助隊が到着できなかったの
か」との声も出ているが、暗
視装置が装備されれば、夜間

の災害時の救助活動にも大き
な威力を発揮するものと期待
されている。

装備される暗視装置は、操
縦士や射手がヘルメットに装
着、双眼鏡のようにのぞき込
むタイプで、水銀電池やリチ
ウム電池が内蔵され、星明か
りなどわずかな光による反射
像を増幅、四百メートル先の五
分の

の物体を正確に識別出来る能
力を持っている。価格は一台
四百万円前後で、ヘリ一機に
二台ずつ装備する。来年早
々にも参考品四台を購入し
て、六十一、二年度にかけて
実用化テストを行い、六十三
年度から六十五年度にかけて
七十台約三億円を各方面隊
のヘリ部隊に装備する方針。

日航惨事

「痛み・苦勞分がち合いたし」

遺族捜索隊へ「全国から手紙や金品

【藤岡、上野】「遺族の方たちと、痛みをわかち合いたくて」「炎天下の捜索の苦勞をせめて金品で助けてあげたい」。日航機墜落事故犠牲者の遺体収容、身元確認作業は大詰めを迎えているが、遺族や担当している自衛隊、警察、地元自治体、消防団などに全国から寄せられる激励の手紙や金品は増え続けるばかり。

二千六百名までに届地の群馬県藤岡市役所と上野村役所に届いた分だけでも現金が約一千百万円、手紙は四百四十通、物品も四百五十通に達している。夏のレジャー費用をそっくり送ってきた若者、誕生日の祝賀を取りやめて寄付を申し出た年配の夫婦……。同じ日本人として見過ごしに出来ない」という温かい心の輪が広がっている。

清涼飲料水、果物、インストラクターメンなどの品物を届ける人も多。とくに連日、二千六百人の隊員を待機させている自衛隊には、清涼飲料水四千五百本、地元群馬の嬉遊村から新鮮な特産キヤベツが大層に贈られているほか、冷ややっこ用の豆腐、露の燗酒なども差し入れられている。

これに対し、上野村の植木正平助役兼言は「同じ日本人として、人道はまだまだ地に落ちていません。本道にこの人たちになんと感謝しているか……」と感激の面持ち。藤岡市の新井総務部長も「最近の世相は軽ちよう浮誇といわれますが、いざという時は助け合いです。皆さまの熱意通り使わせていただきます」と語り、藤岡市、上野村とも捜索活動の合間を見れば状づくりに迫られている。

これら遺体については、群馬県警と同県医師会などが中心になり、指紋、血型、血液型や身体の特徴、最後には着衣の洗濯ネームまで調べた。この個別データを一人が一件ずつ受け持っていて合わせていく作業を続けているが、うち数体は「現代の医学でもどうもさうする」ともできない」（太田武史・群馬県医師会副会長）の事実という。しかし同県警では、「新たな遺体が見つからない限り、今月いっぱい一つのヤマト」になっている。

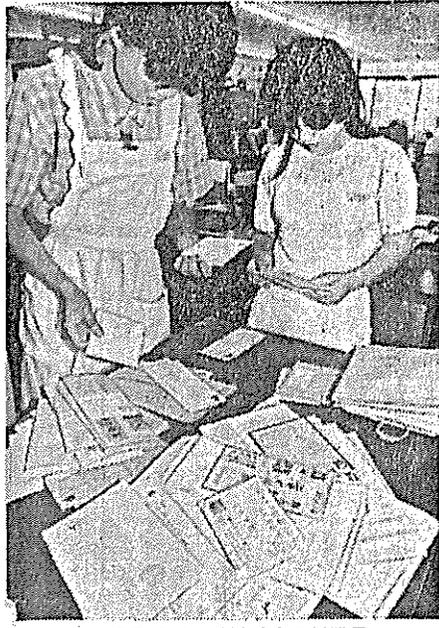
この激励の手紙や金品は、めばかれた「野」の文芸に北海道から九州までの全国が一親身の心配りを感じた（棚ど、心のこもった手紙が相次いでいる。住民総出で後方支援の役員を果たしている上野村役所、藤岡市役所職員に対する激励も目立ち、東京都多摩市、無職杉田隆治さんなどは入間区の木本きわさんは「知客も涙しみにしていたのに……」

感心しました。このお金で疲れをとって下さい」と五月円を届けました。事故を自撃した人からの便りも多い。長野県北佐友郡五月町、農業指導員さんなどは、事故発生当時、花畑でお盆用の切り花をしていて、三

【藤岡】日航機墜落事故の後方支援作業が続けられている。前馬市の群馬県警察学校には、二千六百名遺族が訪れ、八十四家族が四百五十二点の遺品を手にした。恐る遺品は約三百点。

【藤岡】日航機墜落事故の後方支援作業が続けられている。前馬市の群馬県警察学校には、二千六百名遺族が訪れ、八十四家族が四百五十二点の遺品を手にした。恐る遺品は約三百点。

【藤岡】日航機墜落事故の後方支援作業が続けられている。前馬市の群馬県警察学校には、二千六百名遺族が訪れ、八十四家族が四百五十二点の遺品を手にした。恐る遺品は約三百点。



激励の手紙を仕分ける上野村職員

【藤岡】日航機墜落事故の後方支援作業が続けられている。前馬市の群馬県警察学校には、二千六百名遺族が訪れ、八十四家族が四百五十二点の遺品を手にした。恐る遺品は約三百点。

【藤岡】日航機墜落事故の後方支援作業が続けられている。前馬市の群馬県警察学校には、二千六百名遺族が訪れ、八十四家族が四百五十二点の遺品を手にした。恐る遺品は約三百点。

【藤岡】日航機墜落事故の後方支援作業が続けられている。前馬市の群馬県警察学校には、二千六百名遺族が訪れ、八十四家族が四百五十二点の遺品を手にした。恐る遺品は約三百点。

【藤岡】日航機墜落事故の後方支援作業が続けられている。前馬市の群馬県警察学校には、二千六百名遺族が訪れ、八十四家族が四百五十二点の遺品を手にした。恐る遺品は約三百点。

機体倒して山嶺衝突

悲惨な最後 300点もの破片散乱

運輸省の航空事故調査委員会が十九日発表した日航ジャンボ機墜落事故の第三次中間報告書の中で、事故機が最終的に山腹に激突する手前で、二機が互いに別の尾根に接触、右機の一部が破断された後、胴体の一部を破壊して倒れていったことが明らかにされた。機体の残骸が分布状況から推定されたので、激突地点の手前二キロ以上の地点から激突地点へかけの山中から、約三百点もの破片が回収された。機体は、右機が大半へたひ、機体倒伏状態を呈したとみられる。

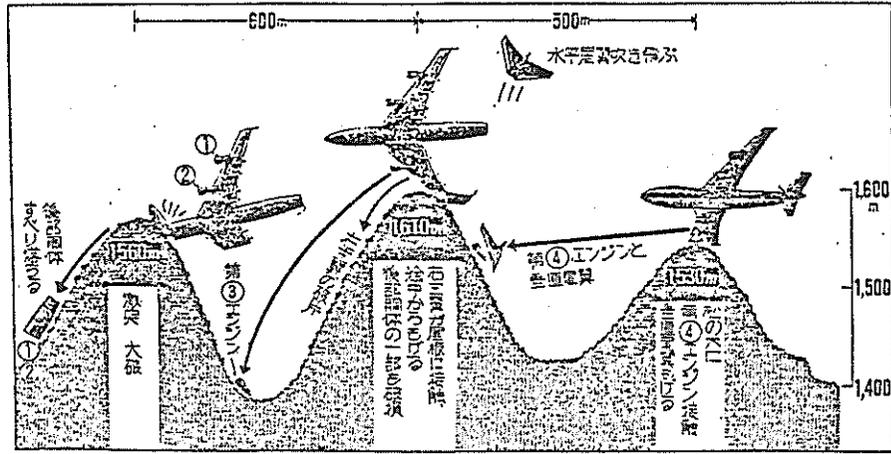
機体が最初に接触したのは、標高一、五三〇呎の尾根に生えていた直径約二十センチの松で、激突地点の東南約四百呎の地点。この木は、樹高十呎程度のものが、樹冠が倒れてきた。

このカラマツから進行方向に向かつて五十一三呎離れた場所には、右主翼の外側にある第四エンジンへの破片八十余点が散乱してあった。エンジンが破断した原因は、巨大なナメコで削られた。その先の急峻な山腹に、カラマツの外核が直撃した。この直撃は、機体の左側面に激突した。この直撃は、機体の左側面に激突した。

機体は、右機が大半へたひ、機体倒伏状態を呈したとみられる。機体の残骸が分布状況から推定されたので、激突地点の手前二キロ以上の地点から激突地点へかけの山中から、約三百点もの破片が回収された。

機体は、右機が大半へたひ、機体倒伏状態を呈したとみられる。機体の残骸が分布状況から推定されたので、激突地点の手前二キロ以上の地点から激突地点へかけの山中から、約三百点もの破片が回収された。

日航機事故中間報告



悲しみの中、地元へ感謝

「献身に心とらるる」

黒沢上納骨堂建設、霊守る 野村長

犠牲者身元確認がきまらなかつた日航機事故の犠牲者の部分遺体の合同火葬が行われ、二百四十遺族、五百三十人が両親とのお別れをしたが、事故処理などに携わった本原岡警察も、日航関係者を通じて参加した。出棺式では遺族の代表が、地元の事故後援にわたる協力を対してお礼が述べられ、岡警察署をホッとさせた。しかし、身元確認作業に使った藤岡市体育館の建て替えや、日航に対する五百回忌の慰霊会など、野村の協賛、納骨堂建設など、県内では例のない余波は手もたれなかった。

日航犠牲者の合同火葬



墓前でめい福を折る
合同火葬出棺式で式辞を述べる黒沢丈夫・上野村長

出棺式、本原岡警察署に於ける遺体の合同火葬に際しては、遺族代表として黒沢丈夫と上野村長が参加した。黒沢は、八月二十日以前、地元の方々の大いなる協力を得て、遺体の身元確認作業に不眠不休の努力をこめて、この日を迎えられたと述べ、心から感謝の意を表した。上野村長は、この日を迎えられたこと、遺族の方々の大いなる協力を得て、遺体の身元確認作業に不眠不休の努力をこめて、この日を迎えられたと述べ、心から感謝の意を表した。上野村長は、この日を迎えられたこと、遺族の方々の大いなる協力を得て、遺体の身元確認作業に不眠不休の努力をこめて、この日を迎えられたと述べ、心から感謝の意を表した。

遺体の身元確認がきまらなかつた日航機事故の犠牲者の部分遺体の合同火葬が行われ、二百四十遺族、五百三十人が両親とのお別れをしたが、事故処理などに携わった本原岡警察も、日航関係者を通じて参加した。出棺式では遺族の代表が、地元の事故後援にわたる協力を対してお礼が述べられ、岡警察署をホッとさせた。しかし、身元確認作業に使った藤岡市体育館の建て替えや、日航に対する五百回忌の慰霊会など、野村の協賛、納骨堂建設など、県内では例のない余波は手もたれなかった。

遺体の判明率は96%にも

医師努力の成果

延べ千二百警察庁も高く評価

日航機事故犠牲者の身元確認作業が、一日新たに三遺体の身元が判明した。今回の事故、身元確認作業に当たった医師、歯科医師は、遺体は九体であった。遺体の判明率が96%に達した。事故当初、二百遺体と推定されたが、現在、延べ千二百警察庁も高く評価されている。遺体の判明率は96%にも達した。今回の事故、身元確認作業に当たった医師、歯科医師は、遺体は九体であった。遺体の判明率が96%に達した。事故当初、二百遺体と推定されたが、現在、延べ千二百警察庁も高く評価されている。

日航 1 2 3 便墜落事故対策の記録

昭和 6 1 年 3 月 印刷発行

編集発行 群馬県総務部 消防防災課

印刷 株式会社 中島プリント商会
